

小規模企業景気動向調査 [2026年9月期調査]

～天候不順とコスト高が重荷となり、厳しい状況が続く小規模企業景況～

<産業全体>

9月期の産業全体の景況は、売上額DI・採算DI・資金繰りDIがわずかに低下、業況DIは不変となった。シルバーウィークの観光需要により一部で売上増加がみられたものの、天候不順による客足や工期への影響、原材料やエネルギー価格の高止まりが、幅広い業種で収益を圧迫した。熊本地震については、直接の被害がない地域においても影響が残るなど、業種を問わず厳しい状況が続いている。

D I	8月	9月	前月比	前年 同月比
売上額	4.3	3.7	▲ 0.6	▲ 3.0
採算	▲ 20.1	▲ 21.7	▲ 1.6	▲ 4.7
資金繰り	▲ 16.4	▲ 18.1	▲ 1.7	▲ 4.9
業況	▲ 17.5	▲ 17.9	▲ 0.4	▲ 4.1

<製造業(食料品、繊維、機械・金属)>原材料・エネルギー価格の高騰と諸経費の増加が重荷となる製造業

製造業は、売上額DIがわずかに改善、採算DIはわずかに低下、業況DIは不変となった。機械・金属関連では半導体関連需要を背景に受注増加の動きが続く一方、食料品関連や繊維業では価格転嫁が進まない中、人件費や諸経費が更に増加するなど、利益を圧迫しており、業種や企業規模による差が見られる。熊本地震の影響については、一部に持ち直しの動きがみられるものの、価格転嫁の難しさもあり、回復は限定的で、先行きにも慎重な見方が続いている。

D I	8月	9月	前月比	前年 同月比
売上額	9.7	11.4	1.7	3.4
採算	▲ 18.3	▲ 19.9	▲ 1.6	▲ 0.8
資金繰り	▲ 15.0	▲ 16.7	▲ 1.7	▲ 2.0
業況	▲ 14.4	▲ 14.2	0.2	1.1

<建設業>天候不順と人手不足による工期の長期化に苦慮する建設業

建設業は、売上額DI・採算DIが小幅に低下、資金繰りDI・業況DIがわずかに改善となった。需要は堅調に推移しているものの、天候不順等による工期の遅れや、慢性的な人手不足による受注制限の長期化に加え、長引く資材価格の高騰が採算を圧迫しており、収益環境は依然として厳しい状況が続いている。熊本地震の影響については、復旧・復興関連の工事需要が増えており、今後も増加が見込まれるが、人手不足や資材調達難が大きな足かせとなっている。

D I	8月	9月	前月比	前年 同月比
売上額	3.8	1.2	▲ 2.6	▲ 8.5
採算	▲ 22.8	▲ 24.7	▲ 1.9	▲ 8.1
資金繰り	▲ 20.7	▲ 18.9	1.8	▲ 7.7
業況	▲ 21.6	▲ 20.0	1.6	▲ 9.0

<小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)>根強い買い控え傾向と客足の減少が収益を圧迫する小売業

小売業は、売上額DIが不変、採算DI・資金繰りDIが小幅に低下、業況DIがわずかに低下となった。シルバーウィーク特需や観光需要が食料品関連を中心にみられた一方、天候不順による来店客数の減少や野菜価格の高騰、消費者の根強い買い控え傾向が、引き続き、収益を圧迫している。熊本地震の影響については、店舗や設備、物流面での改善がみられるものの、依然として厳しい状況が続いている。

D I	8月	9月	前月比	前年 同月比
売上額	3.0	2.8	▲ 0.2	▲ 0.3
採算	▲ 21.3	▲ 23.9	▲ 2.6	▲ 3.4
資金繰り	▲ 17.0	▲ 20.1	▲ 3.1	▲ 3.6
業況	▲ 19.9	▲ 21.5	▲ 1.6	▲ 1.8

<サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)>宿泊需要は堅調だが、天候不順により一部地域で売上が伸び悩むサービス業

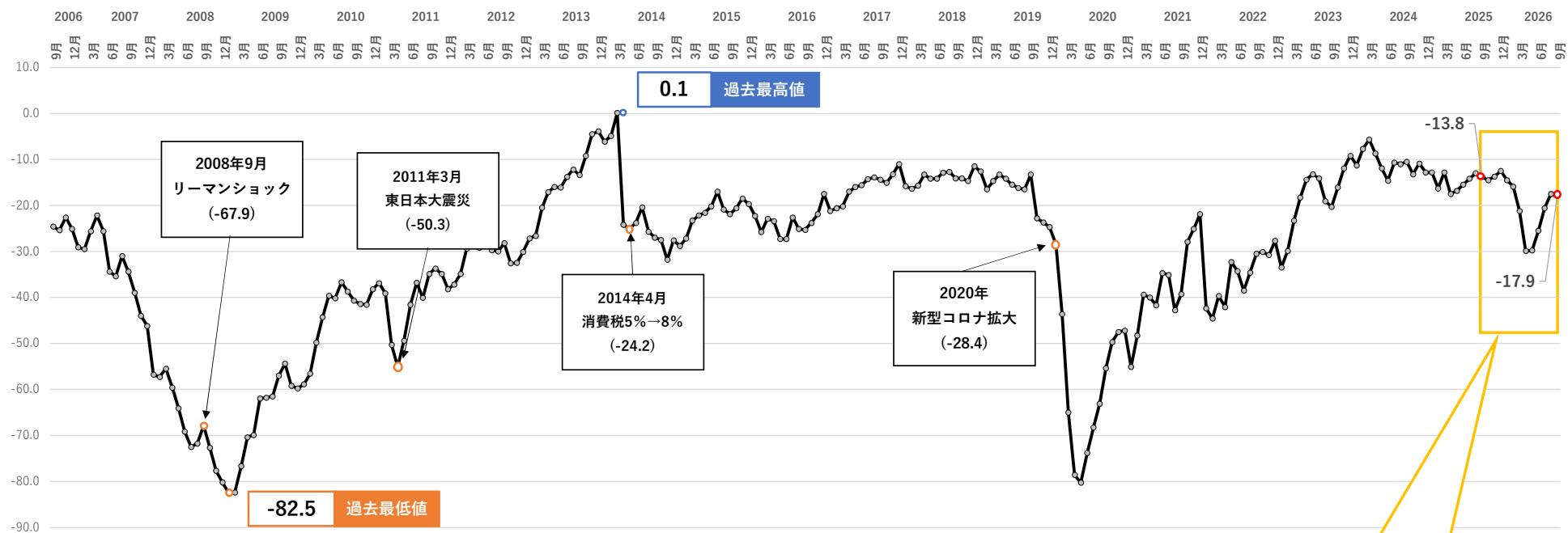
サービス業は、売上額DI・業況DIがわずかに低下、資金繰りDIが小幅に低下、採算DIが不変となった。シルバーウィークやインバウンドによる宿泊需要が底堅く推移したものの、全体としては、業種を問わず長雨や台風の影響による来店客数の減少を受け、売上が伸び悩む地域が多く、厳しい経営環境が続いている。熊本地震の影響については、宿泊キャンセルによる売上減少に加え、休業した事業者もみられるなど、宿泊業を中心に非常に厳しい状況が続いている。

D I	8月	9月	前月比	前年 同月比
売上額	0.9	▲ 0.4	▲ 1.3	▲ 6.1
採算	▲ 18.0	▲ 18.3	▲ 0.3	▲ 6.5
資金繰り	▲ 13.1	▲ 16.6	▲ 3.5	▲ 6.1
業況	▲ 14.3	▲ 15.8	▲ 1.5	▲ 6.8

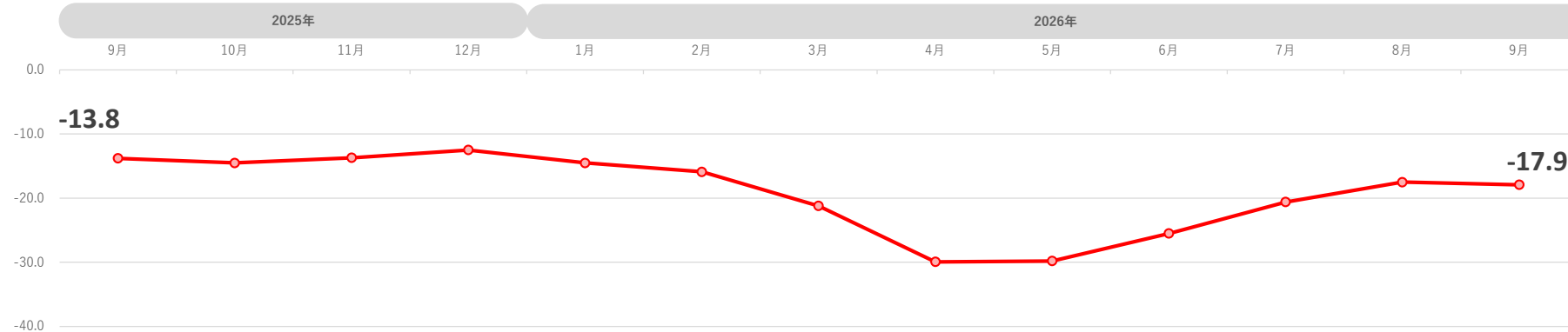
調査概要

- ・調査対象: 全国 303 商工会の経営指導員(有効回答数: 234/回答率 77.2%)
- ・調査時点: 2026 年 9 月末
- ・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式
- ※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査 産業全体の業況DIグラフ～過去20年のトレンド～



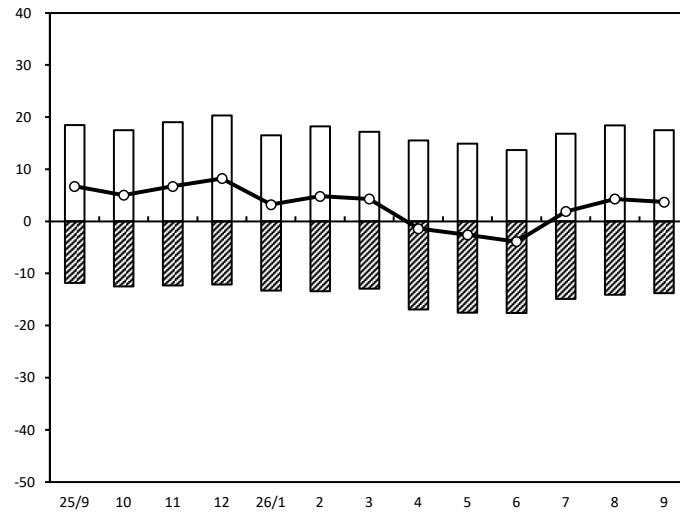
産業全体の業況DIグラフ～直近1年間～



小規模企業景気動向調査(2026年9月期)

産業全体(前年同月比)

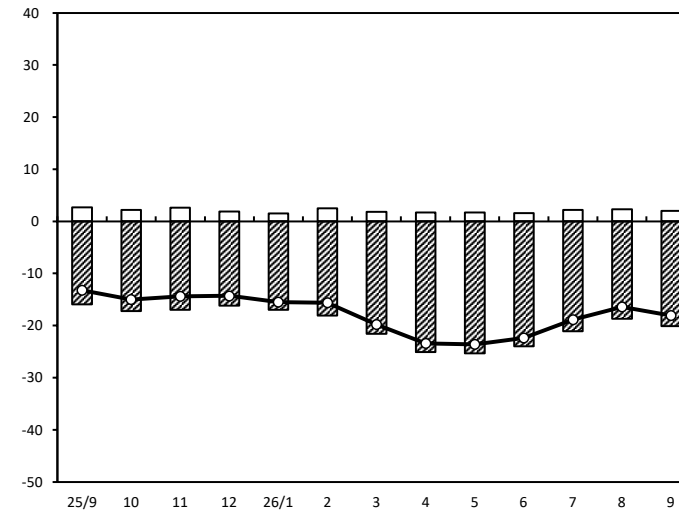
売上額



年/月	増加	減少	DI
25/9	18.5	-11.8	6.7
10	17.5	-12.5	5.0
11	19.0	-12.3	6.7
12	20.3	-12.1	8.2
26/1	16.5	-13.3	3.2
2	18.2	-13.4	4.8
3	17.2	-12.9	4.3
4	15.5	-16.9	-1.4
5	14.9	-17.5	-2.6
6	13.7	-17.6	-3.9
7	16.8	-14.9	1.9
8	18.4	-14.1	4.3
9	17.5	-13.8	3.7

(年月)

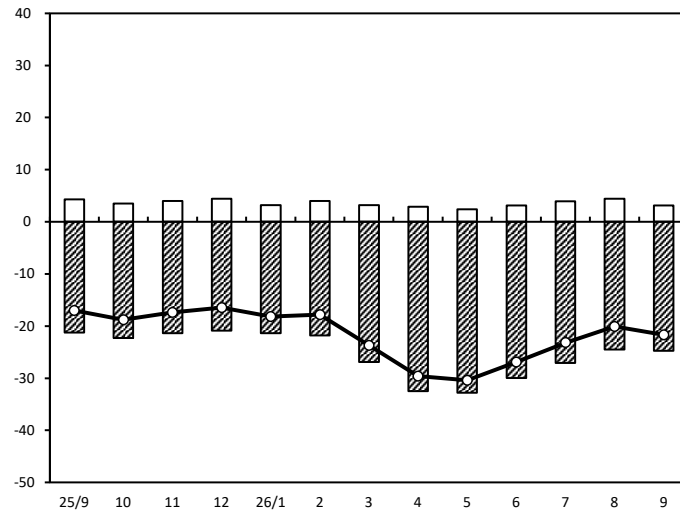
資金繰り



年/月	増加	減少	DI
25/9	2.7	-15.9	-13.2
10	2.2	-17.2	-15.0
11	2.6	-17.0	-14.4
12	1.9	-16.2	-14.3
26/1	1.5	-17.0	-15.5
2	2.5	-18.1	-15.6
3	1.8	-21.6	-19.8
4	1.7	-25.1	-23.4
5	1.7	-25.3	-23.6
6	1.6	-24.0	-22.4
7	2.2	-21.1	-18.9
8	2.3	-18.7	-16.4
9	2.0	-20.1	-18.1

(年月)

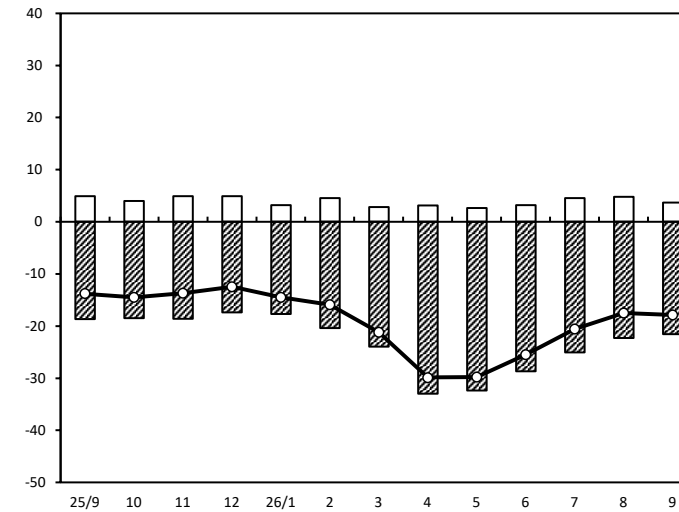
採算



年/月	増加	減少	DI
25/9	4.3	-21.3	-17.0
10	3.5	-22.3	-18.8
11	4.0	-21.4	-17.4
12	4.4	-20.9	-16.5
26/1	3.2	-21.4	-18.2
2	4.0	-21.8	-17.8
3	3.2	-26.9	-23.7
4	2.9	-32.5	-29.6
5	2.4	-32.8	-30.4
6	3.1	-30.0	-26.9
7	3.9	-27.1	-23.2
8	4.4	-24.5	-20.1
9	3.1	-24.8	-21.7

(年月)

業界の業況

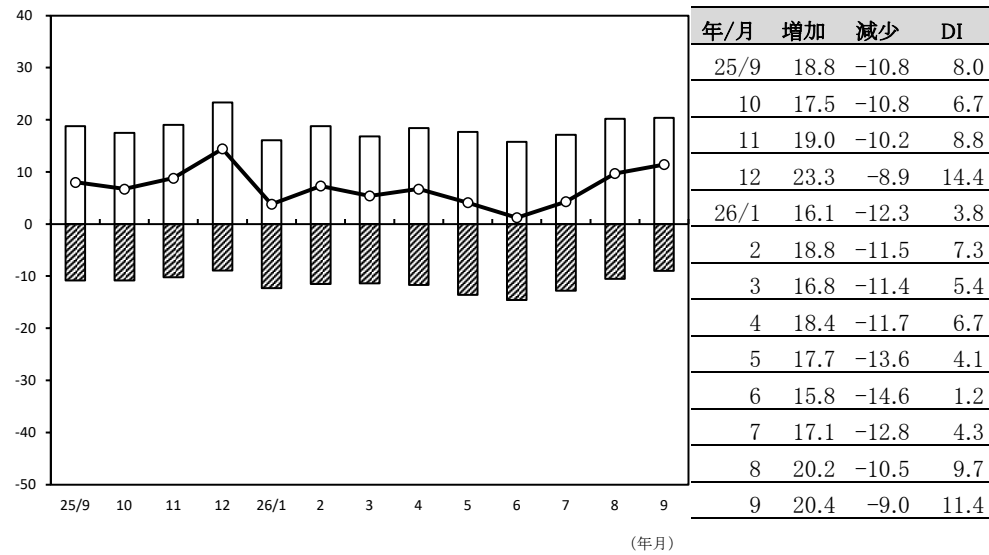


年/月	増加	減少	DI
25/9	4.9	-18.7	-13.8
10	4.0	-18.5	-14.5
11	4.9	-18.6	-13.7
12	4.9	-17.4	-12.5
26/1	3.2	-17.7	-14.5
2	4.5	-20.4	-15.9
3	2.8	-24.0	-21.2
4	3.1	-33.0	-29.9
5	2.6	-32.4	-29.8
6	3.2	-28.7	-25.5
7	4.5	-25.1	-20.6
8	4.8	-22.3	-17.5
9	3.7	-21.6	-17.9

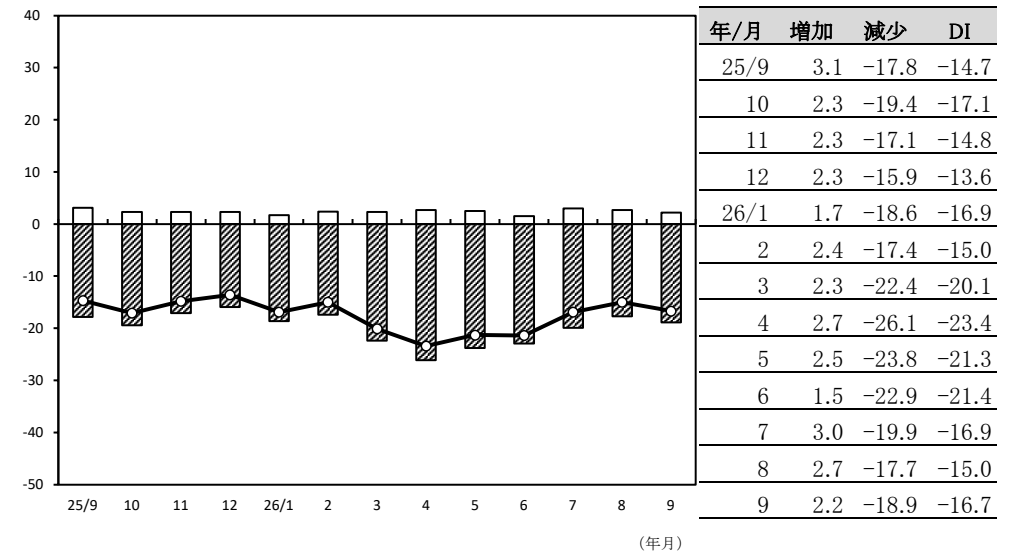
(年月)

製 造 業(前年同月比)

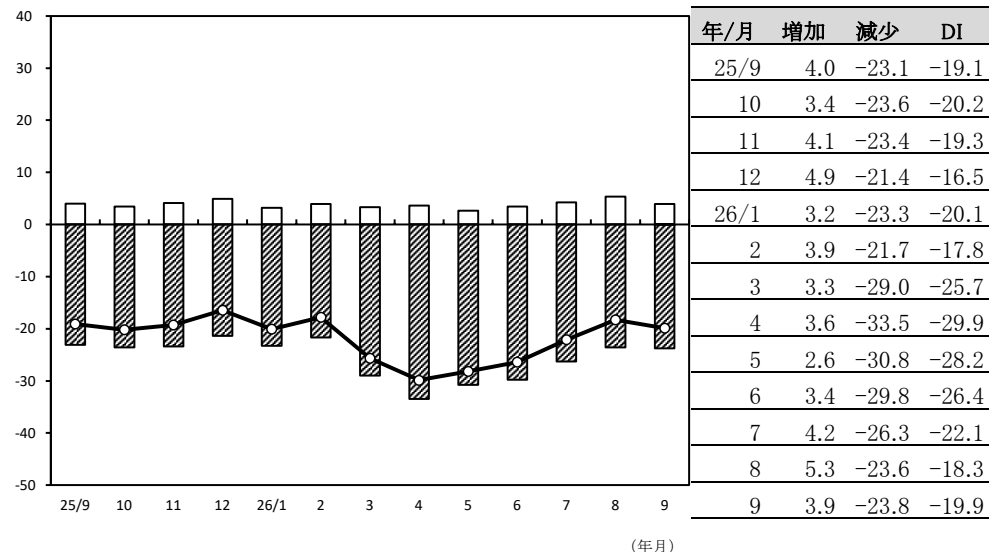
売上額



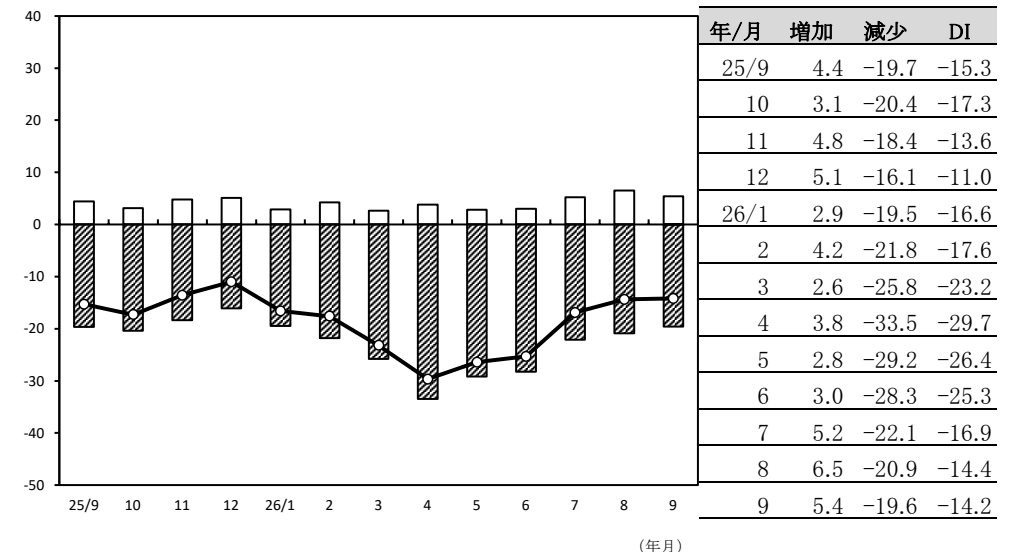
資金繰り



採算

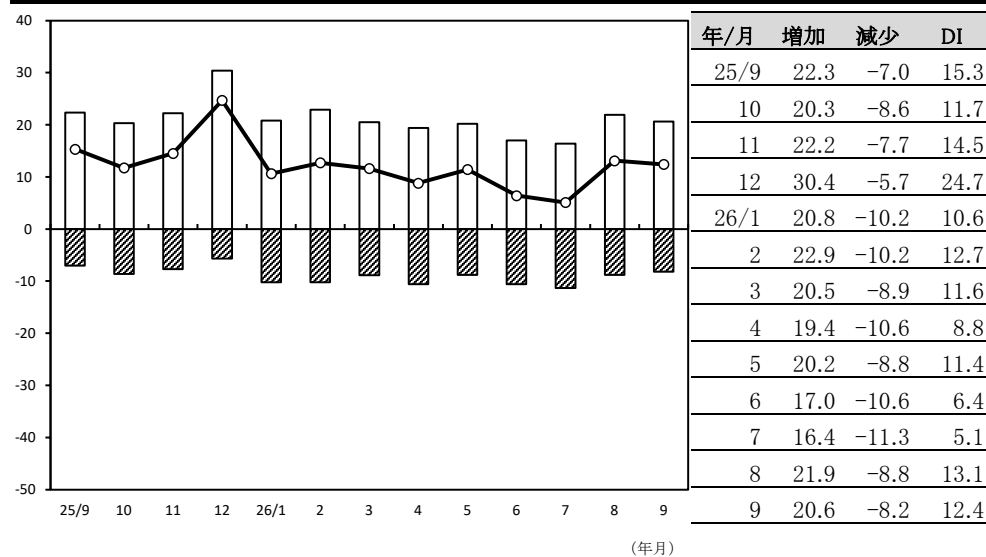


業界の業況

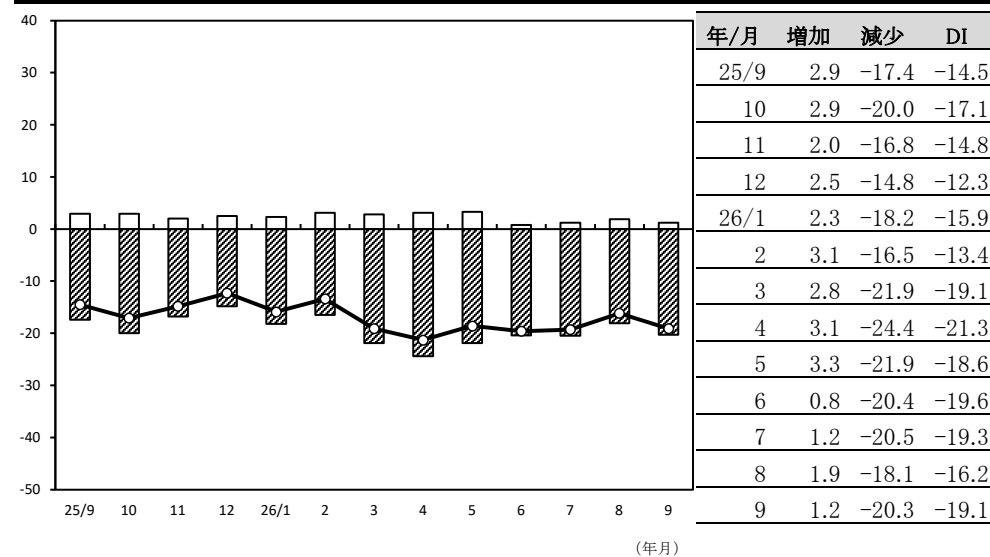


製 造 業 【食料品】（前年同月比）

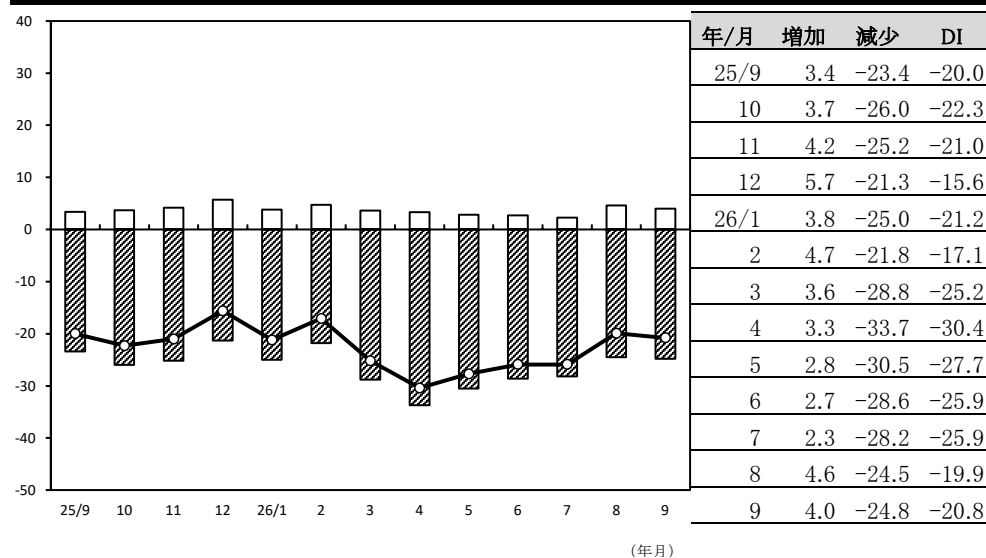
売上額



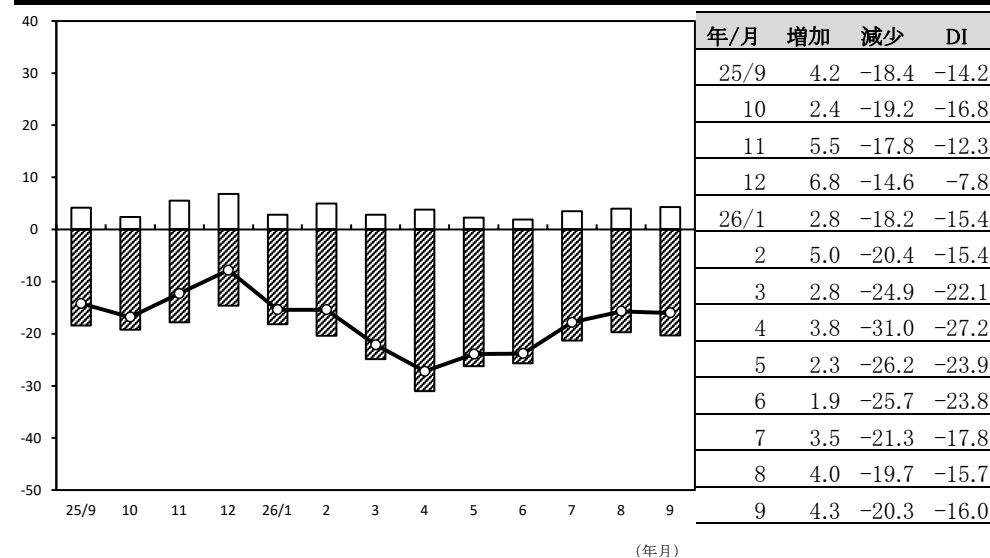
資金繰り



採算

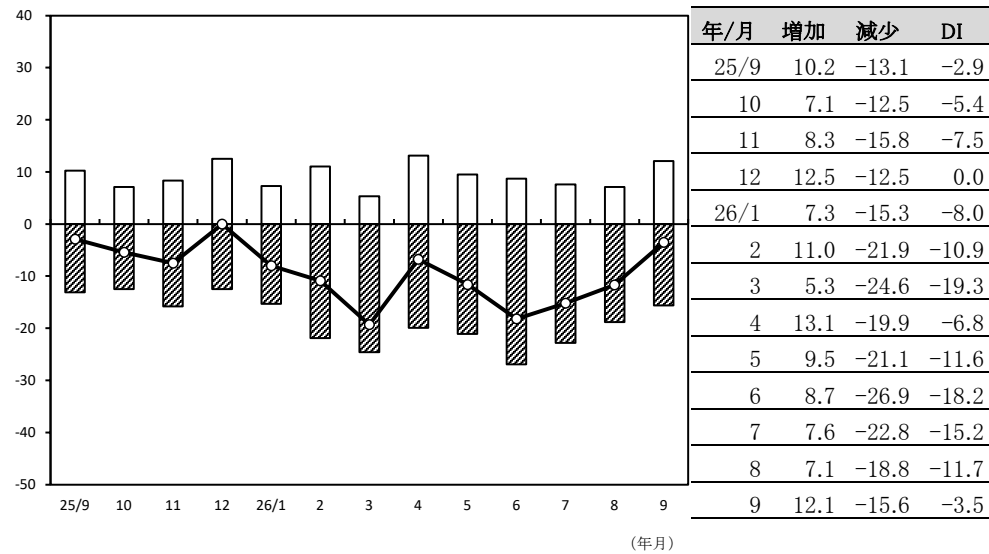


業界の業況

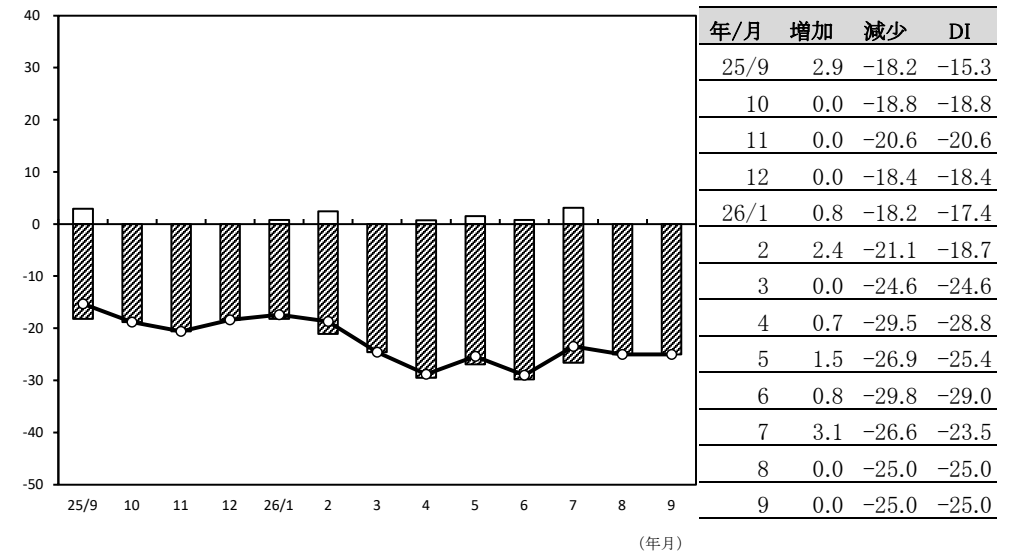


製 造 業【繊維】（前年同月比）

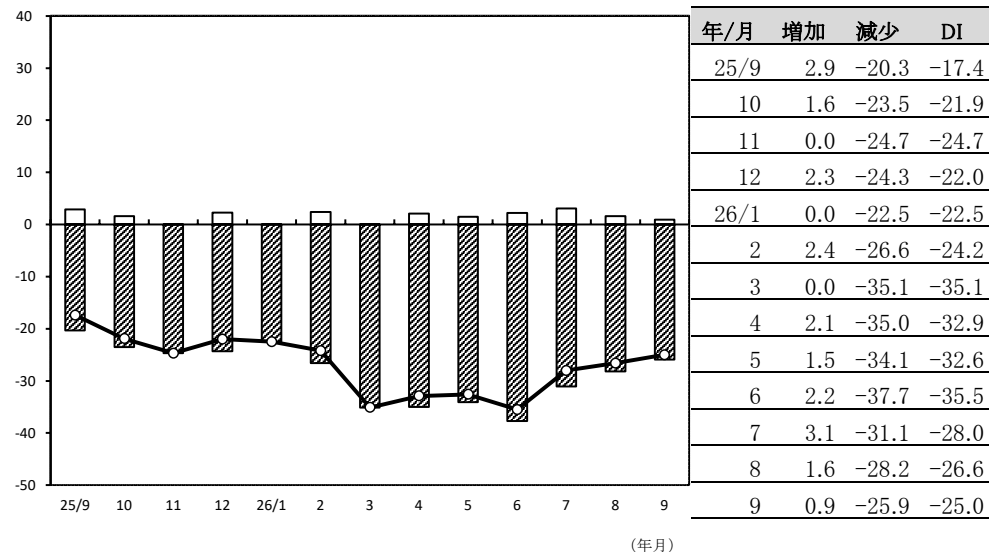
売上額



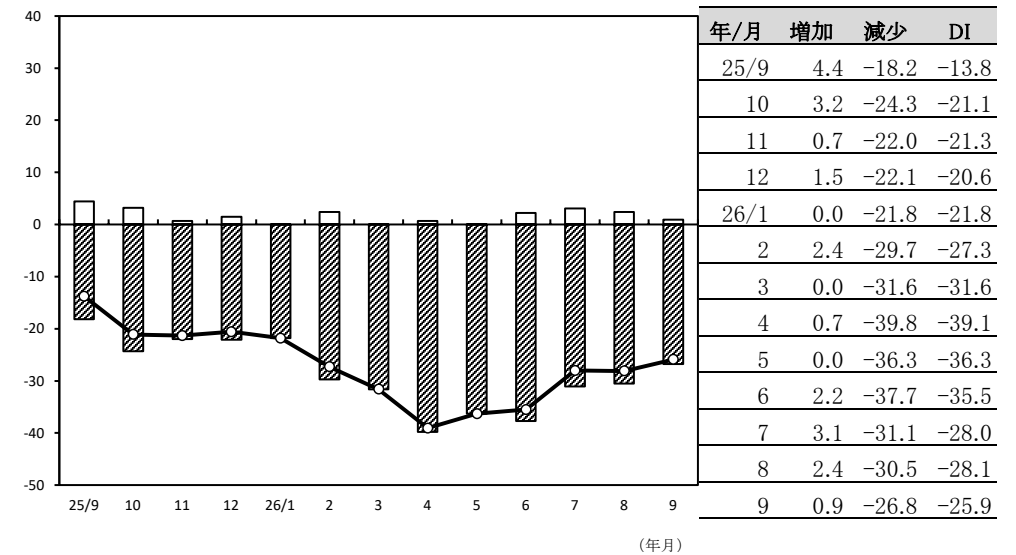
資金繰り



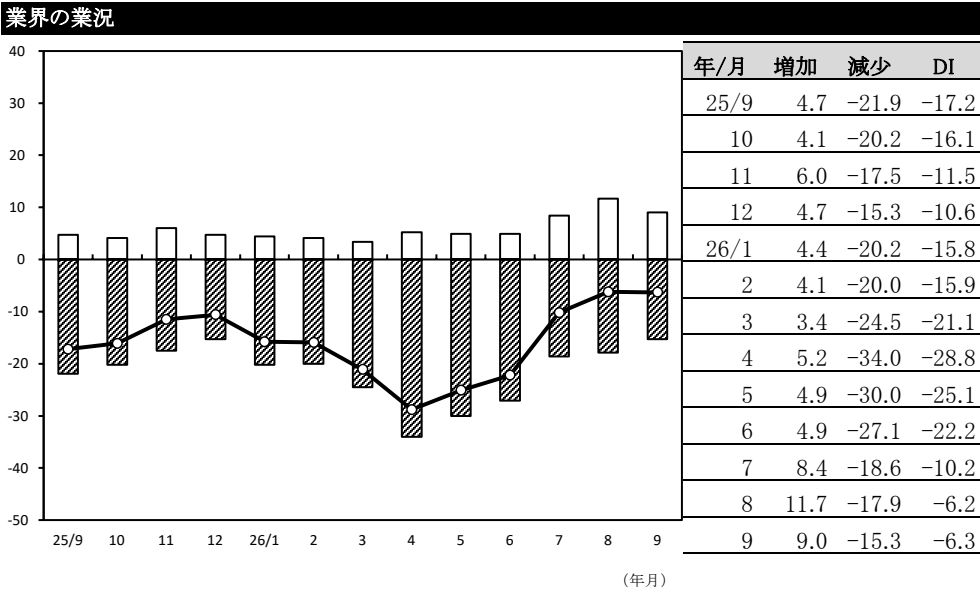
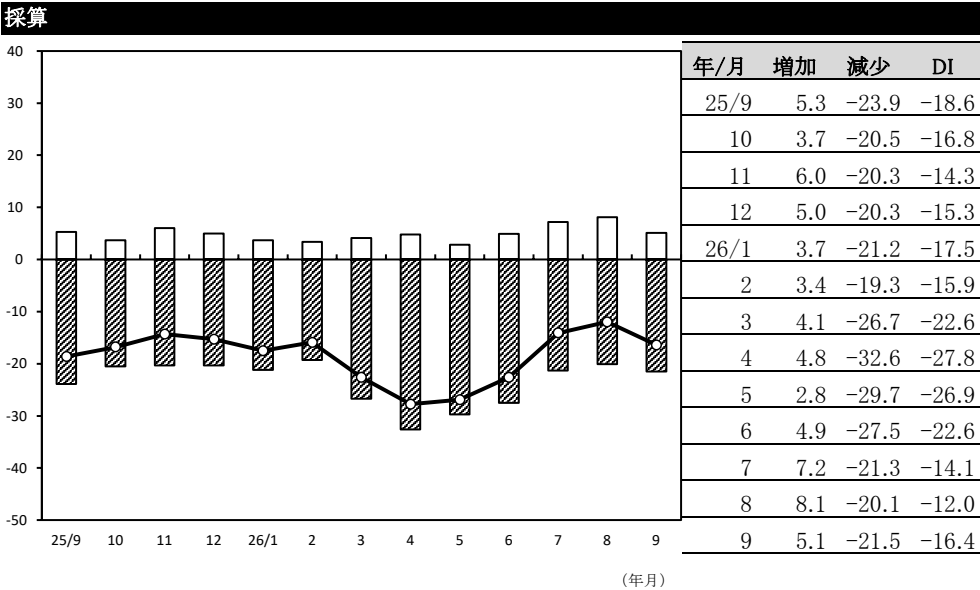
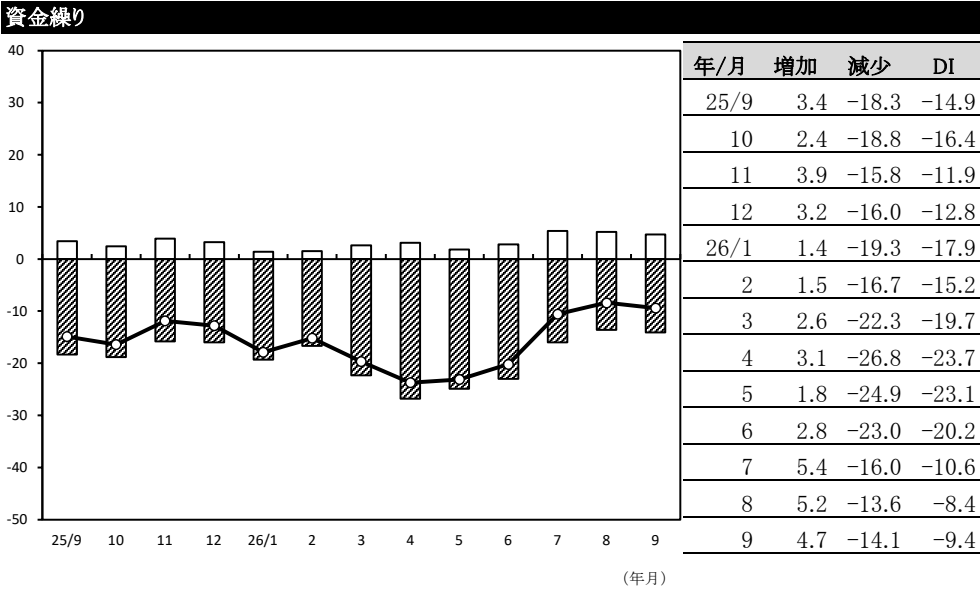
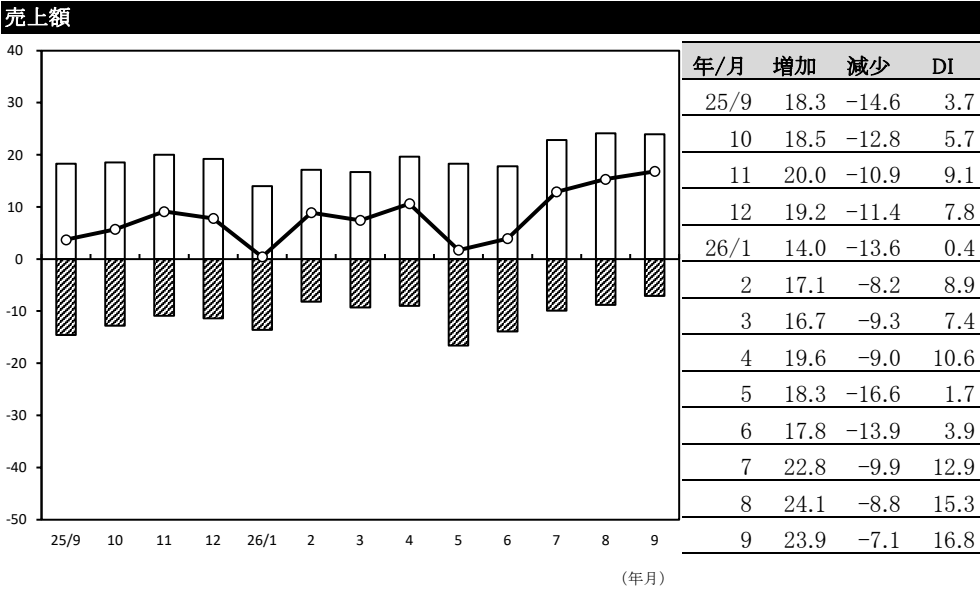
採算



業界の業況

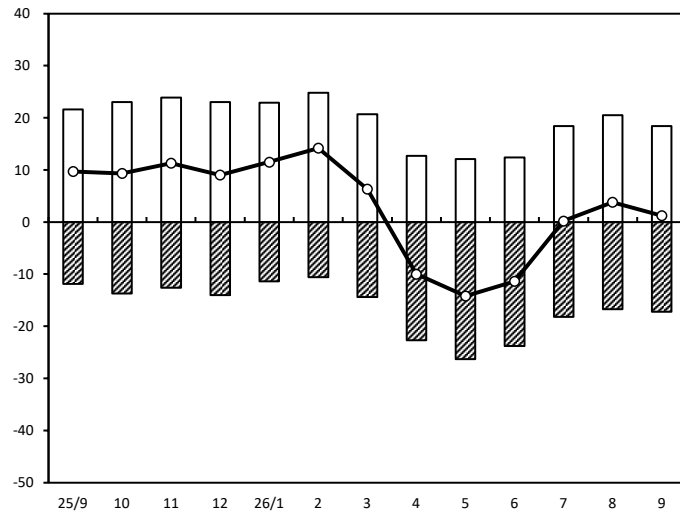


製 造 業【機械・金属】（前年同月比）



建 設 業(前年同月比)

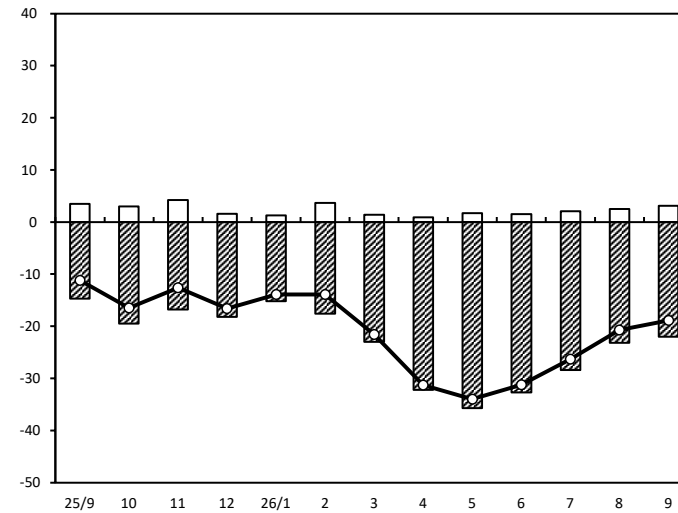
売上額



年/月	増加	減少	DI
25/9	21.6	-11.9	9.7
10	23.0	-13.7	9.3
11	23.9	-12.6	11.3
12	23.0	-14.0	9.0
26/1	22.9	-11.4	11.5
2	24.8	-10.6	14.2
3	20.7	-14.4	6.3
4	12.7	-22.7	-10.0
5	12.1	-26.3	-14.2
6	12.4	-23.8	-11.4
7	18.4	-18.2	0.2
8	20.5	-16.7	3.8
9	18.4	-17.2	1.2

(年月)

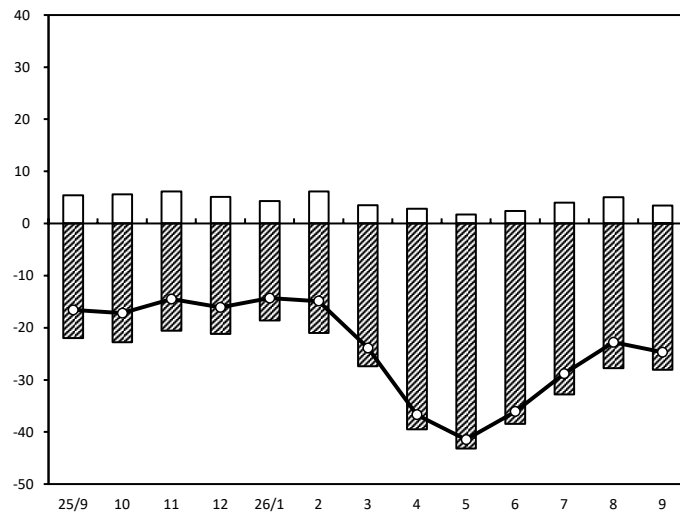
資金繰り



年/月	増加	減少	DI
25/9	3.5	-14.7	-11.2
10	3.0	-19.5	-16.5
11	4.2	-16.8	-12.6
12	1.6	-18.2	-16.6
26/1	1.3	-15.2	-13.9
2	3.7	-17.6	-13.9
3	1.4	-23.0	-21.6
4	0.9	-32.2	-31.3
5	1.7	-35.7	-34.0
6	1.5	-32.7	-31.2
7	2.1	-28.4	-26.3
8	2.5	-23.2	-20.7
9	3.1	-22.0	-18.9

(年月)

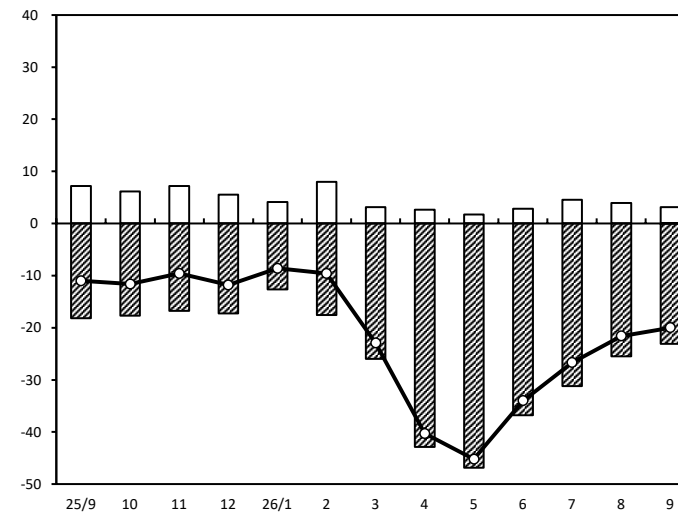
採算



年/月	増加	減少	DI
25/9	5.4	-22.0	-16.6
10	5.6	-22.8	-17.2
11	6.1	-20.6	-14.5
12	5.1	-21.2	-16.1
26/1	4.3	-18.6	-14.3
2	6.1	-21.0	-14.9
3	3.5	-27.4	-23.9
4	2.8	-39.5	-36.7
5	1.7	-43.2	-41.5
6	2.4	-38.5	-36.1
7	4.0	-32.8	-28.8
8	5.0	-27.8	-22.8
9	3.4	-28.1	-24.7

(年月)

業界の業況

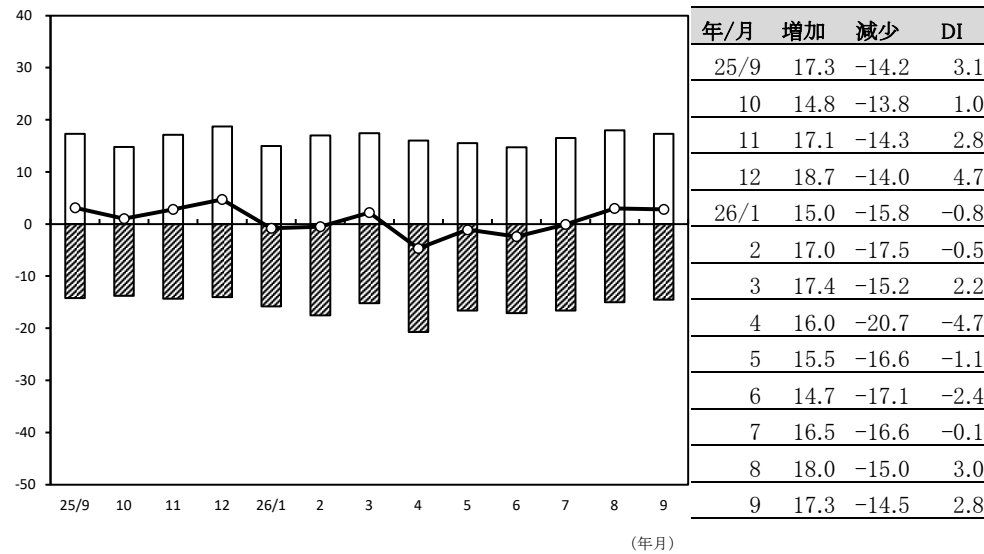


年/月	増加	減少	DI
25/9	7.2	-18.2	-11.0
10	6.1	-17.7	-11.6
11	7.2	-16.8	-9.6
12	5.5	-17.3	-11.8
26/1	4.1	-12.7	-8.6
2	8.0	-17.6	-9.6
3	3.1	-26.0	-22.9
4	2.6	-42.9	-40.3
5	1.7	-46.9	-45.2
6	2.8	-36.8	-34.0
7	4.5	-31.2	-26.7
8	3.9	-25.5	-21.6
9	3.1	-23.1	-20.0

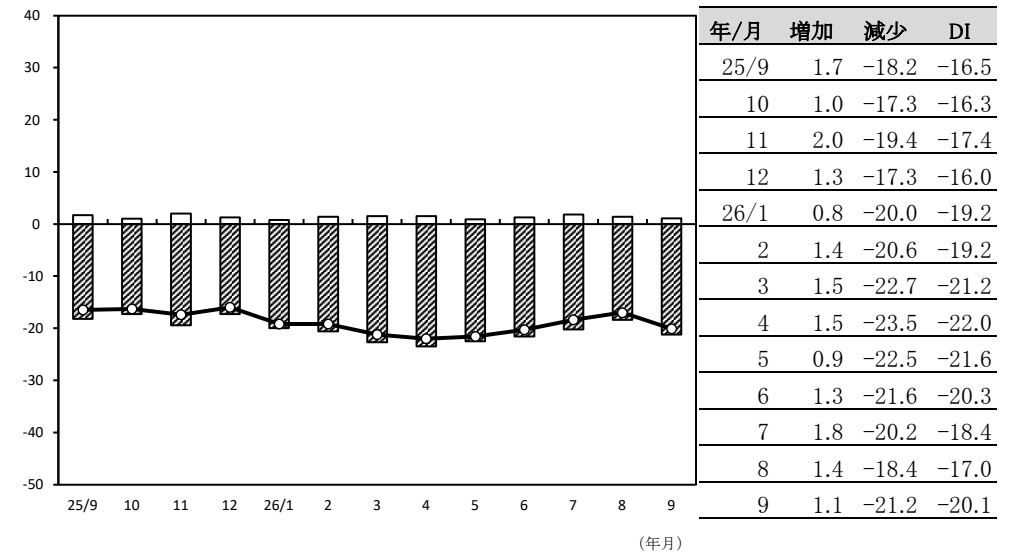
(年月)

小 売 業(前年同月比)

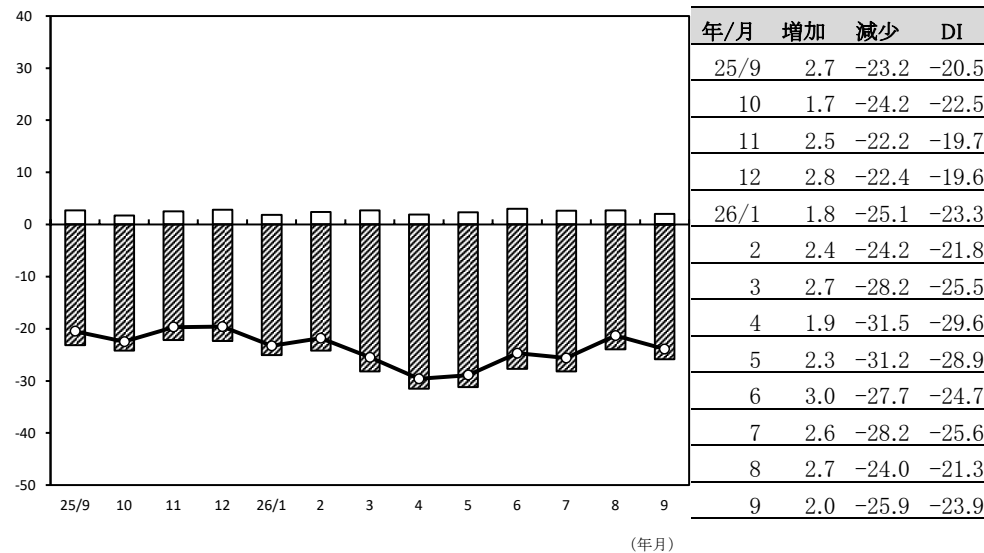
売上額



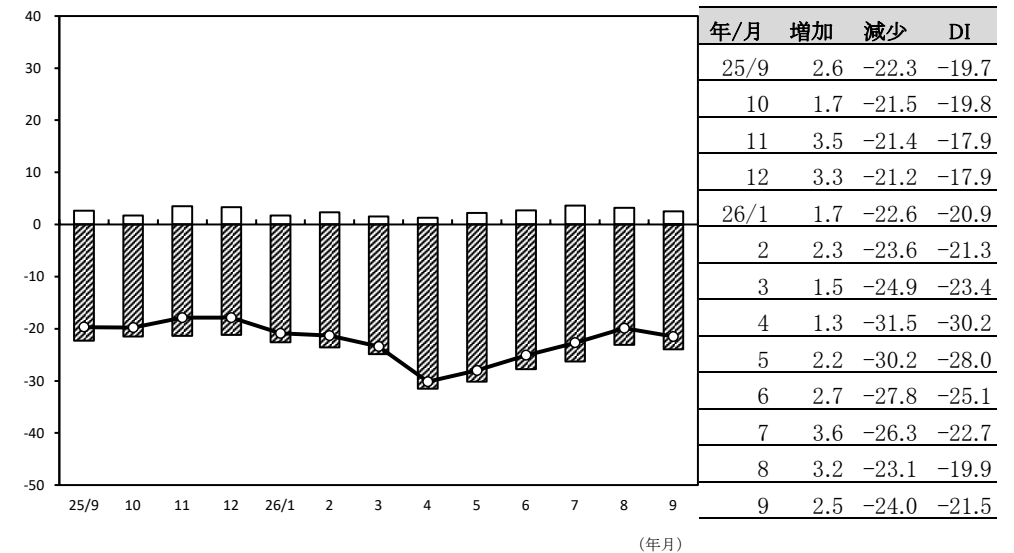
資金繰り



採算

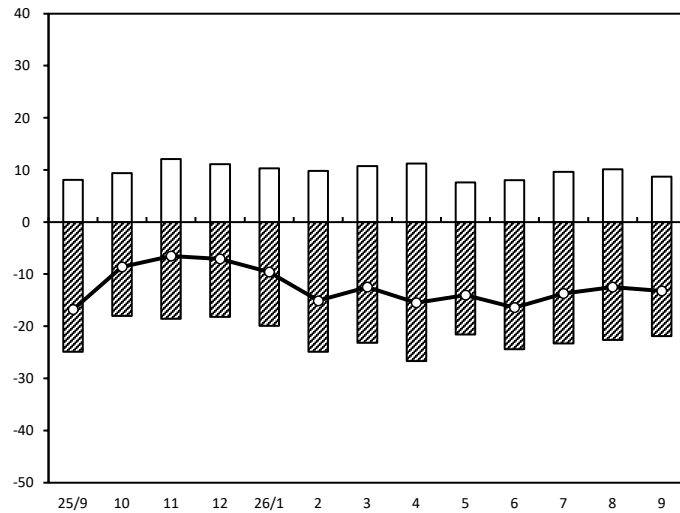


業界の業況



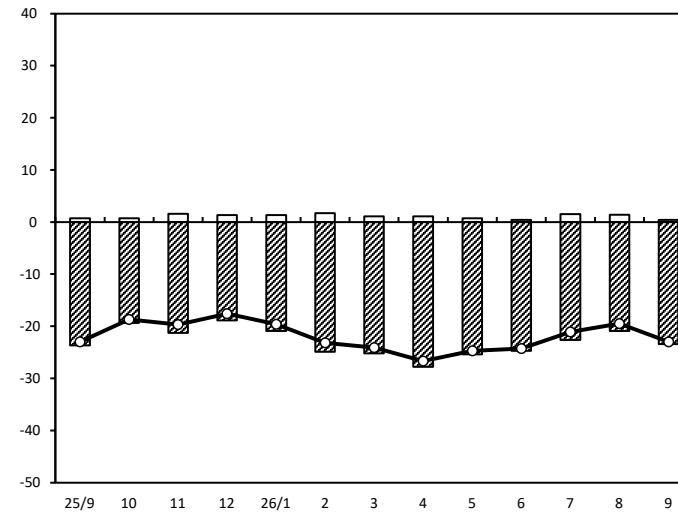
小 売 業【衣料品】（前年同月比）

売上額



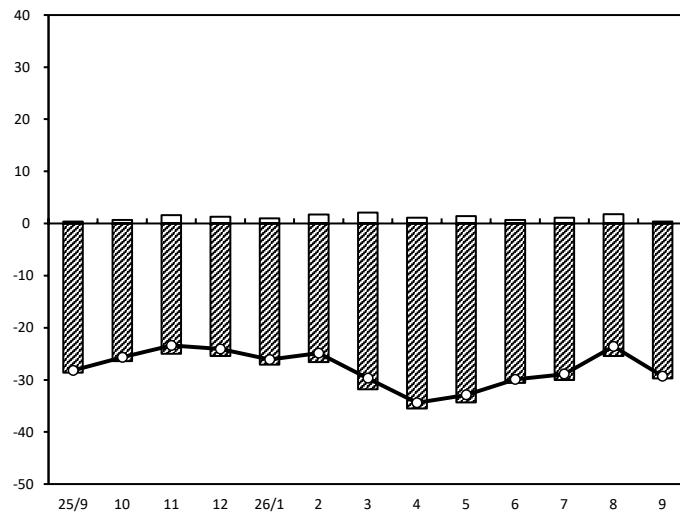
(年月)

資金繰り



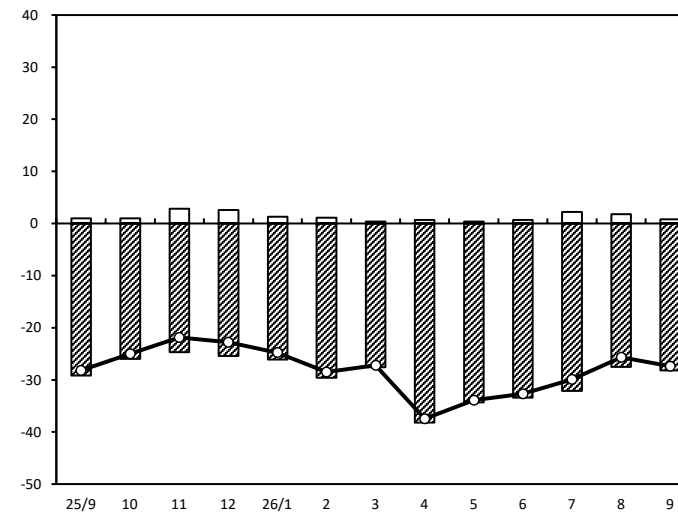
(年月)

採算



(年月)

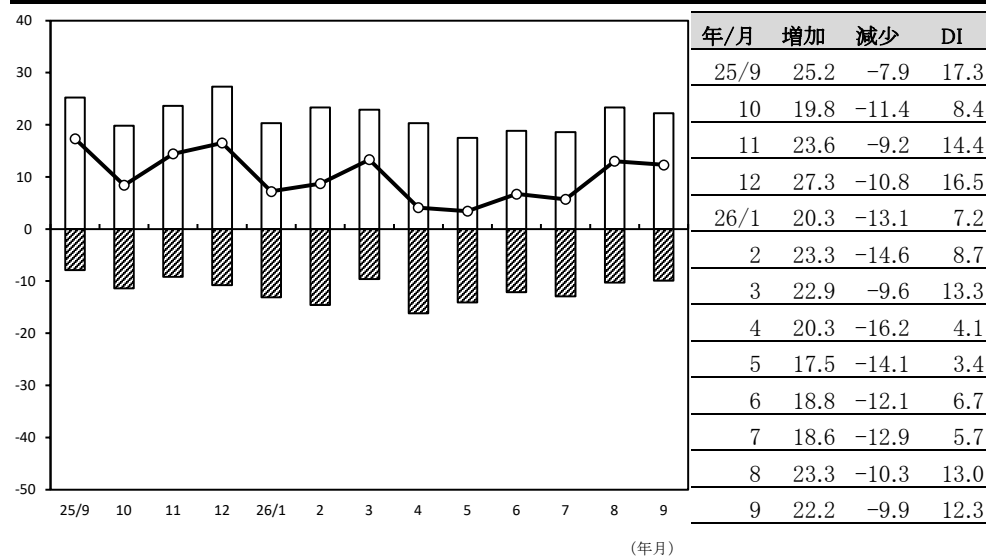
業界の業況



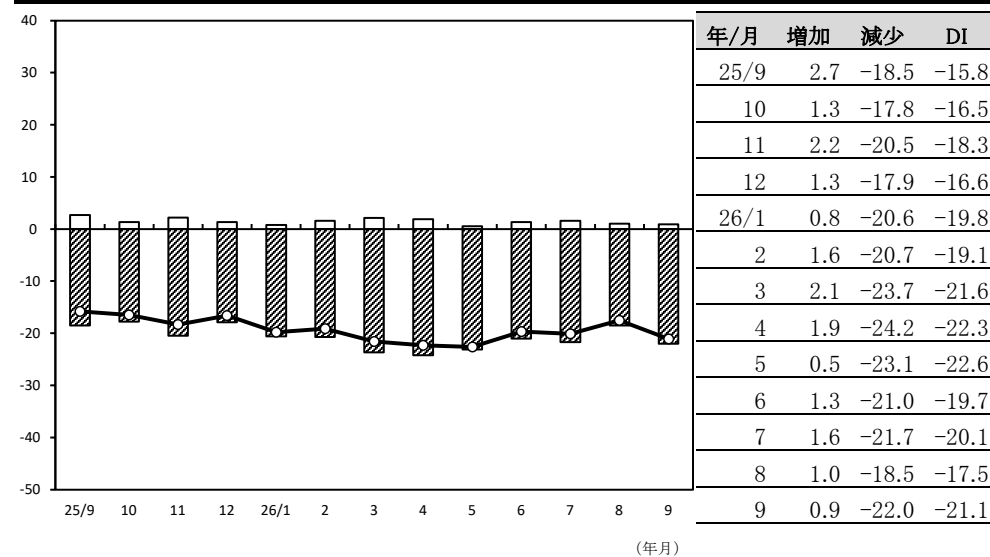
(年月)

小 売 業【食料品】（前年同月比）

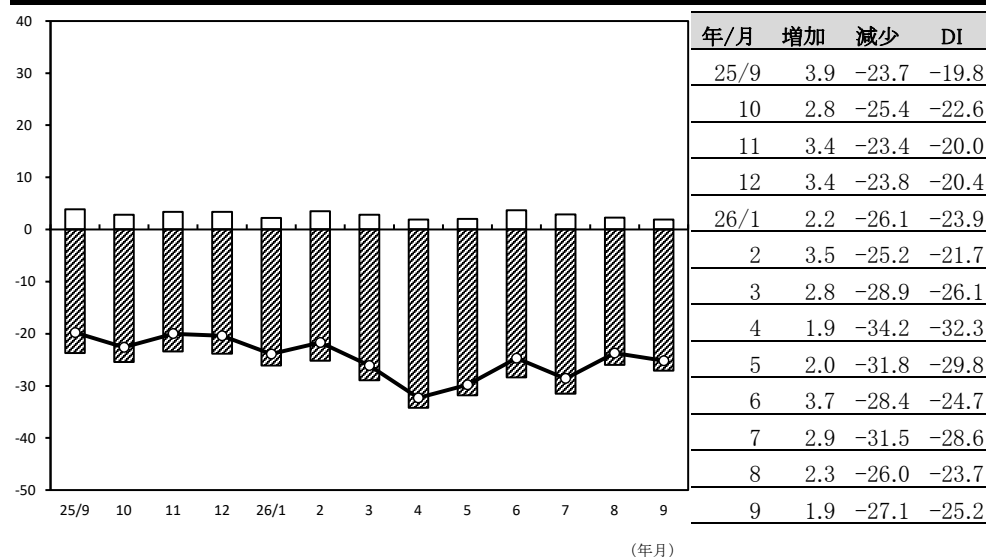
売上額



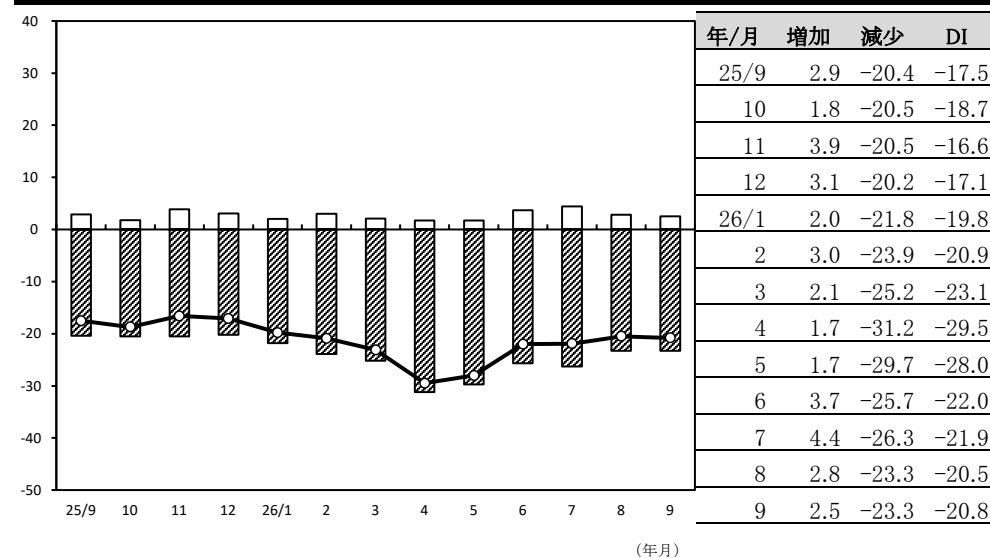
資金繰り



採算

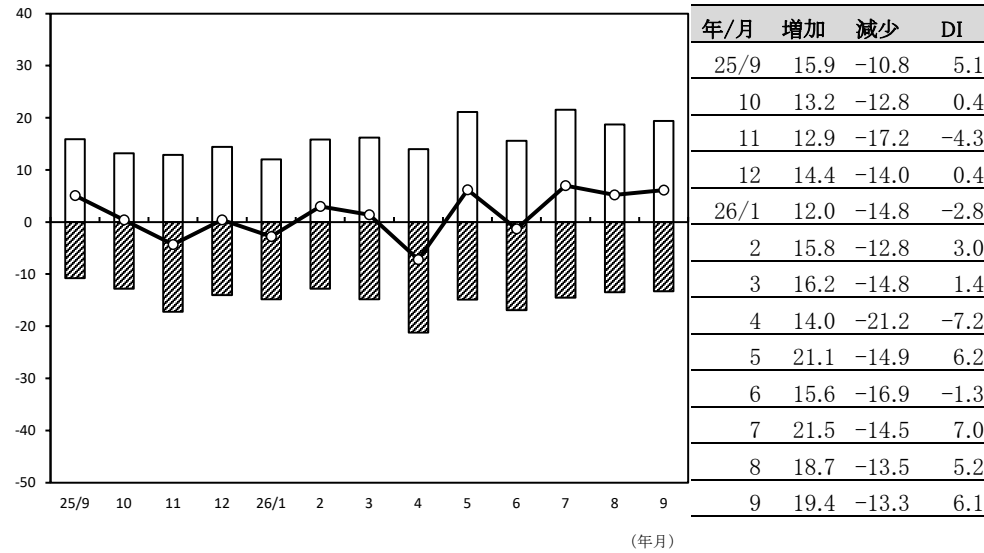


業界の業況

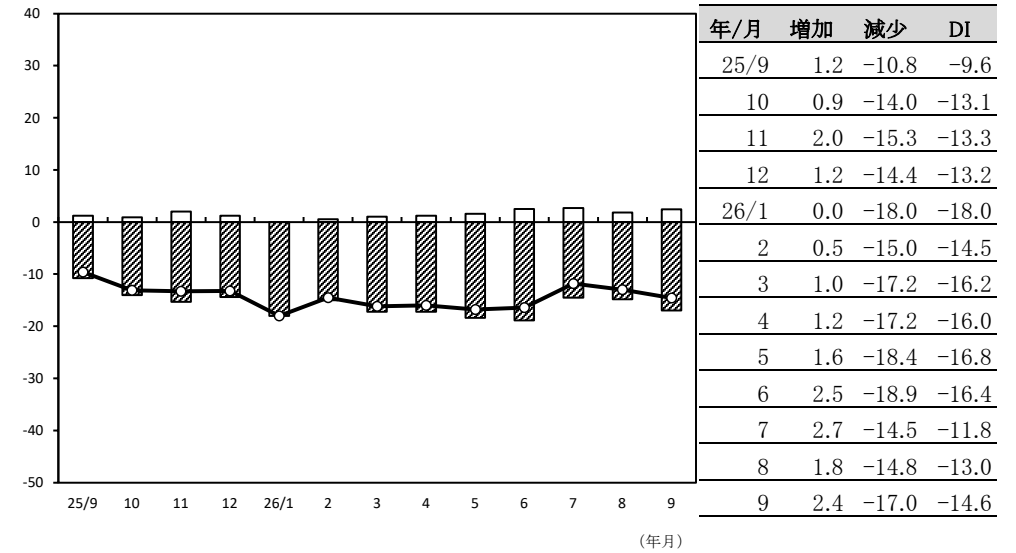


小 売 業【耐久消費財】（前年同月比）

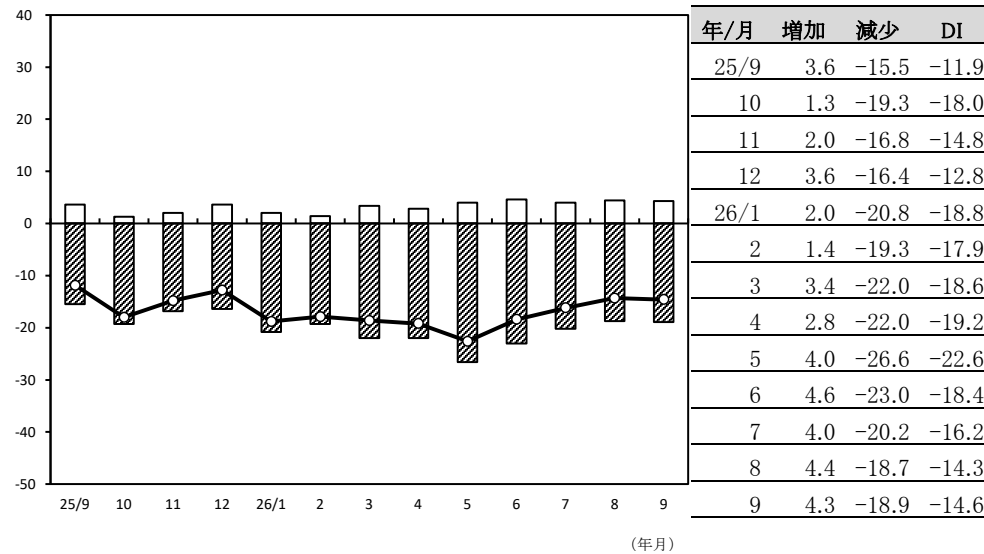
売上額



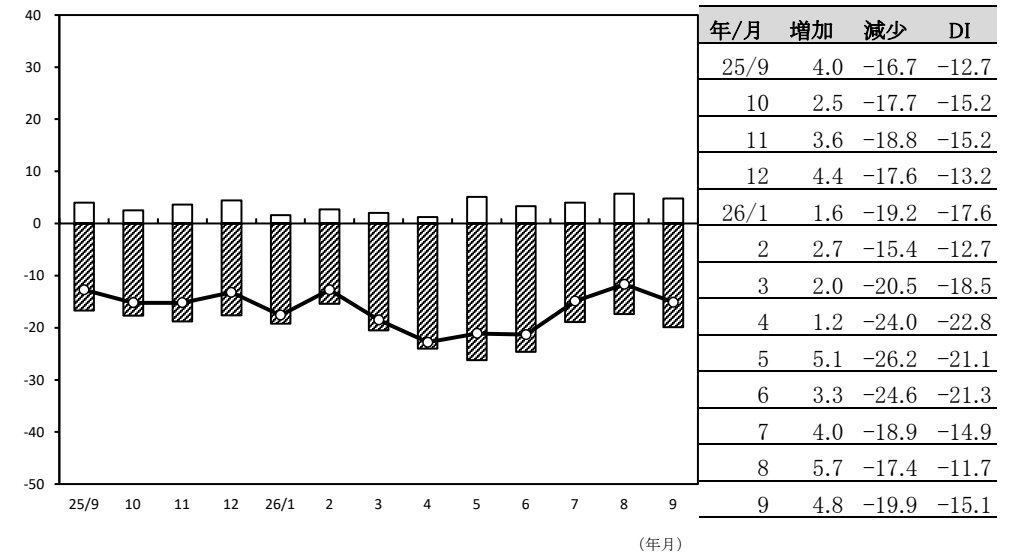
資金繰り



採算

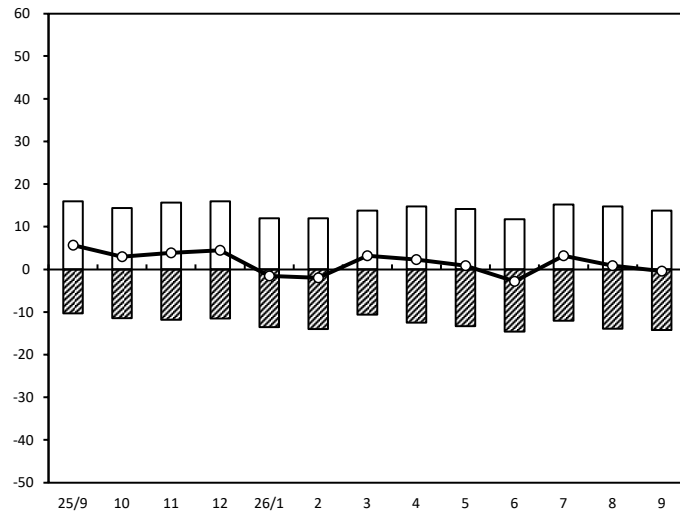


業界の業況



サービス業(前年同月比)

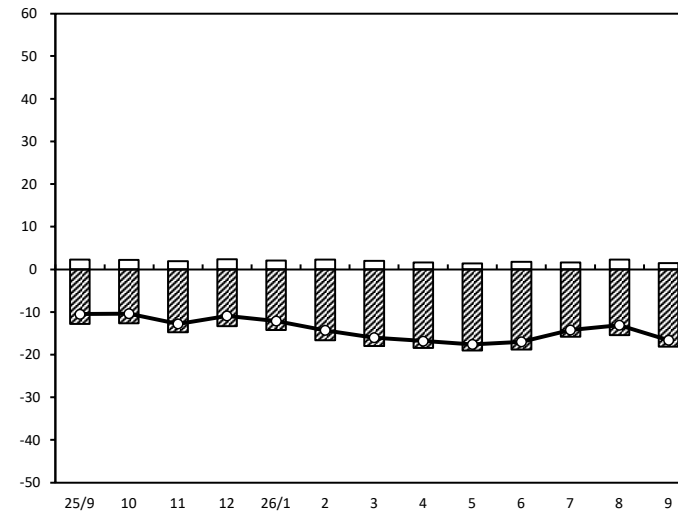
売上額



年/月	増加	減少	DI
25/9	16.0	-10.3	5.7
10	14.4	-11.4	3.0
11	15.7	-11.8	3.9
12	16.0	-11.5	4.5
26/1	12.0	-13.5	-1.5
2	12.0	-14.0	-2.0
3	13.8	-10.6	3.2
4	14.8	-12.5	2.3
5	14.2	-13.3	0.9
6	11.8	-14.6	-2.8
7	15.2	-12.0	3.2
8	14.8	-13.9	0.9
9	13.8	-14.2	-0.4

(年月)

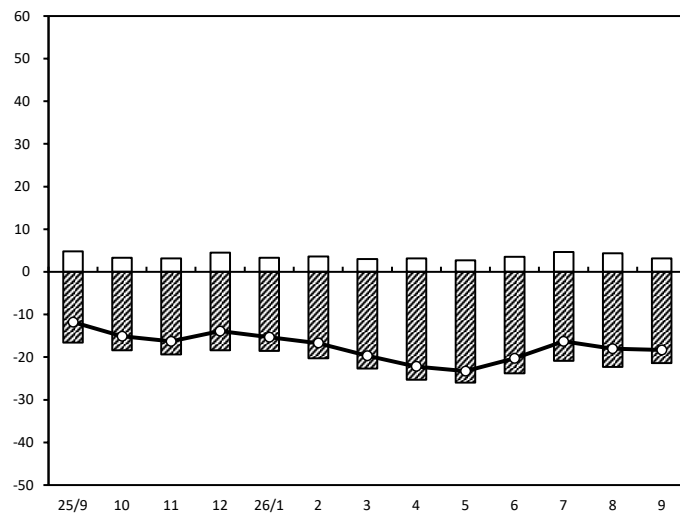
資金繰り



年/月	増加	減少	DI
25/9	2.3	-12.8	-10.5
10	2.2	-12.6	-10.4
11	1.9	-14.7	-12.8
12	2.4	-13.3	-10.9
26/1	2.1	-14.2	-12.1
2	2.3	-16.6	-14.3
3	2.0	-18.0	-16.0
4	1.6	-18.4	-16.8
5	1.4	-19.0	-17.6
6	1.8	-18.8	-17.0
7	1.6	-15.8	-14.2
8	2.3	-15.4	-13.1
9	1.5	-18.1	-16.6

(年月)

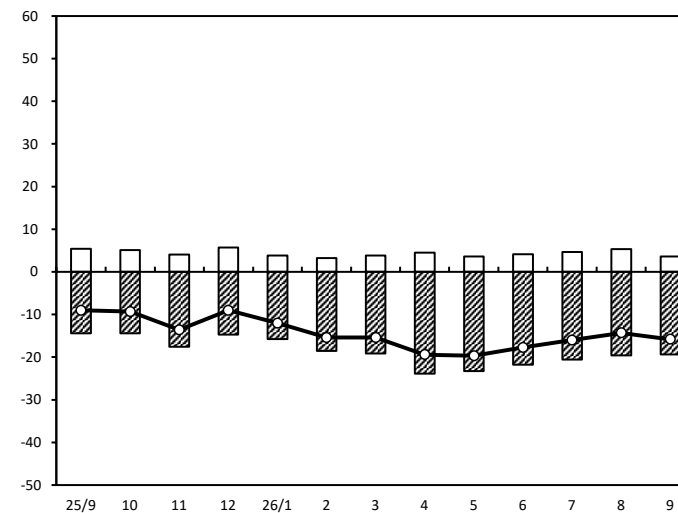
採算



年/月	増加	減少	DI
25/9	4.8	-16.6	-11.8
10	3.3	-18.4	-15.1
11	3.1	-19.4	-16.3
12	4.5	-18.4	-13.9
26/1	3.3	-18.6	-15.3
2	3.6	-20.3	-16.7
3	3.0	-22.7	-19.7
4	3.1	-25.3	-22.2
5	2.7	-26.0	-23.3
6	3.5	-23.8	-20.3
7	4.6	-20.9	-16.3
8	4.3	-22.3	-18.0
9	3.1	-21.4	-18.3

(年月)

業界の業況

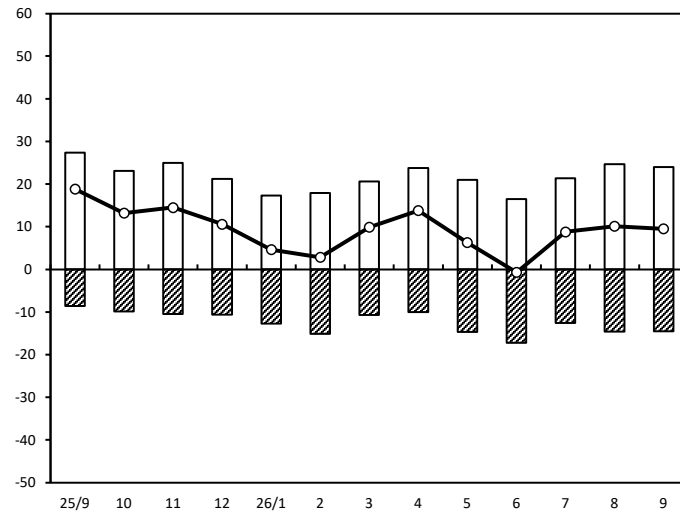


年/月	増加	減少	DI
25/9	5.4	-14.4	-9.0
10	5.1	-14.4	-9.3
11	4.0	-17.6	-13.6
12	5.7	-14.7	-9.0
26/1	3.8	-15.8	-12.0
2	3.2	-18.6	-15.4
3	3.8	-19.2	-15.4
4	4.5	-23.9	-19.4
5	3.6	-23.3	-19.7
6	4.1	-21.8	-17.7
7	4.6	-20.6	-16.0
8	5.3	-19.6	-14.3
9	3.6	-19.4	-15.8

(年月)

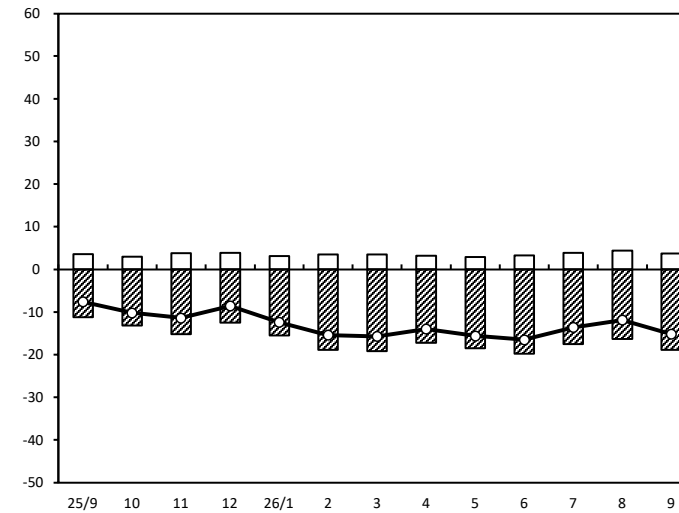
サービス業【旅館】（前年同月比）

売上額



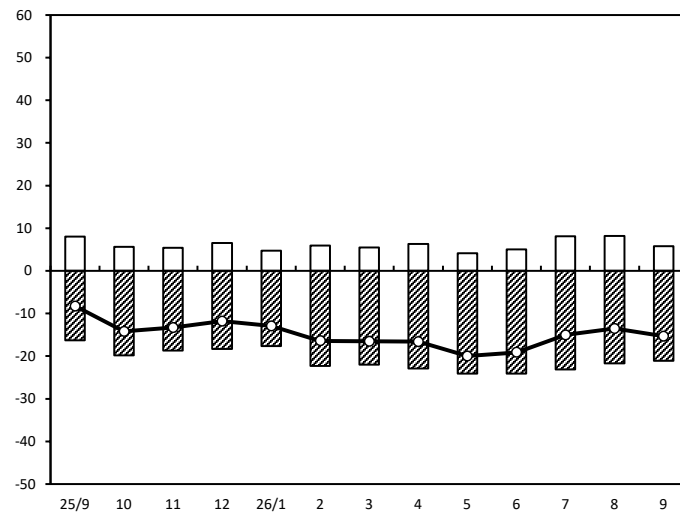
(年月)

資金繰り



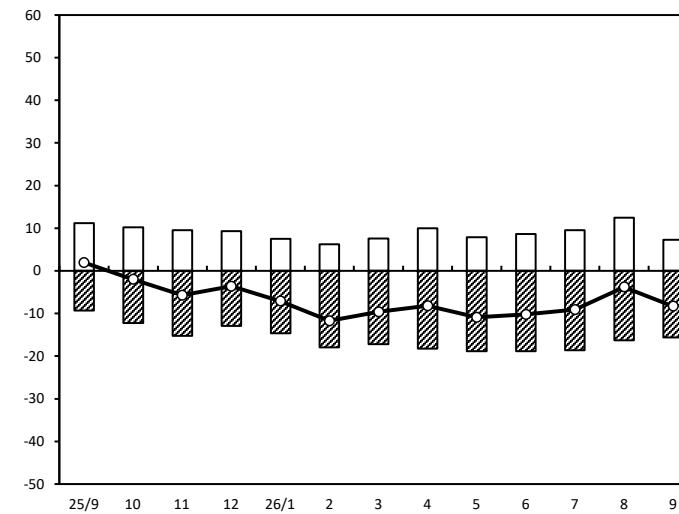
(年月)

採算



(年月)

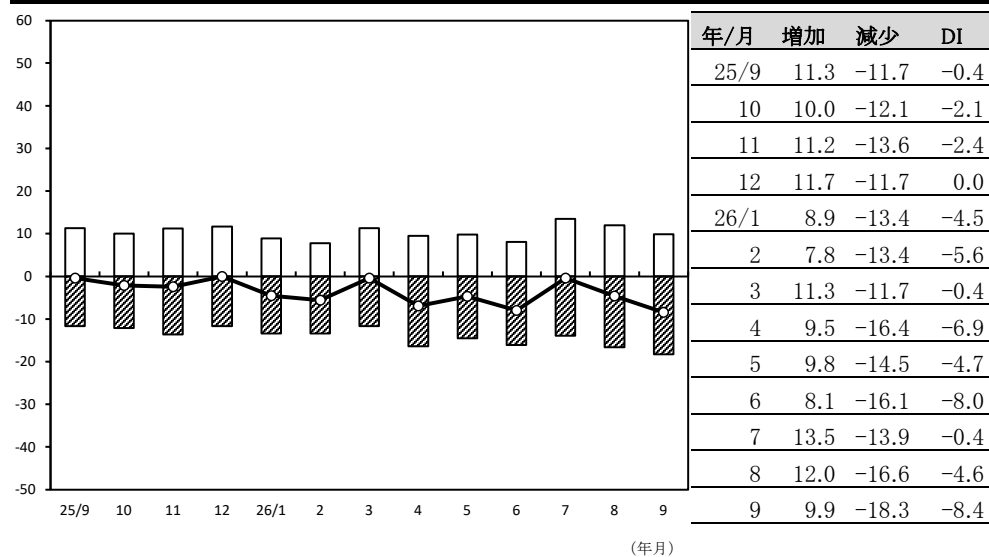
業界の業況



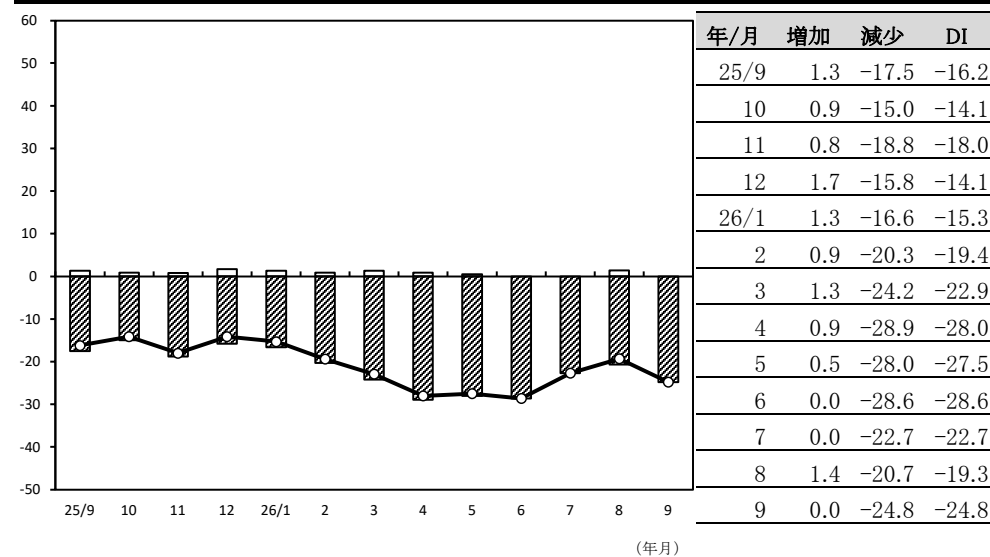
(年月)

サービス業【クリーニング】（前年同月比）

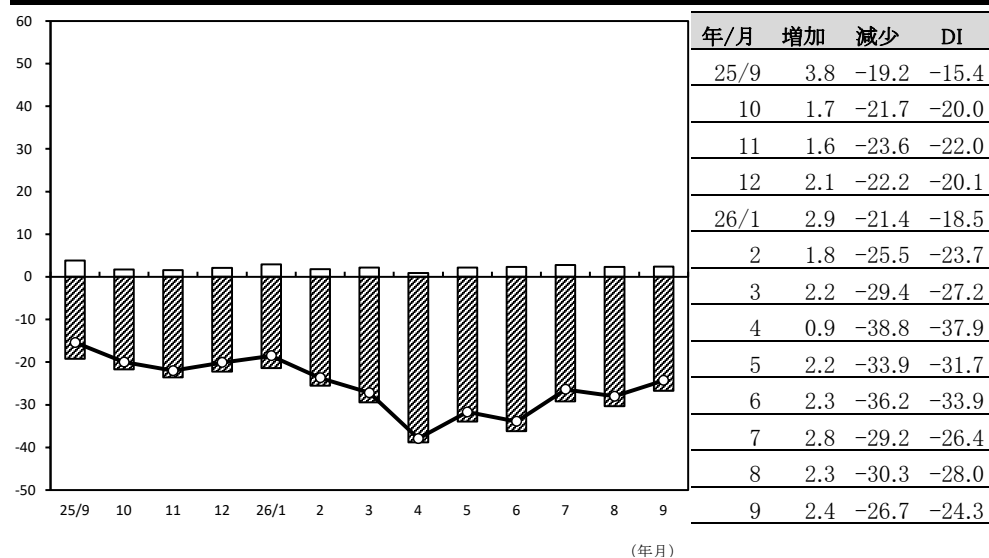
売上額



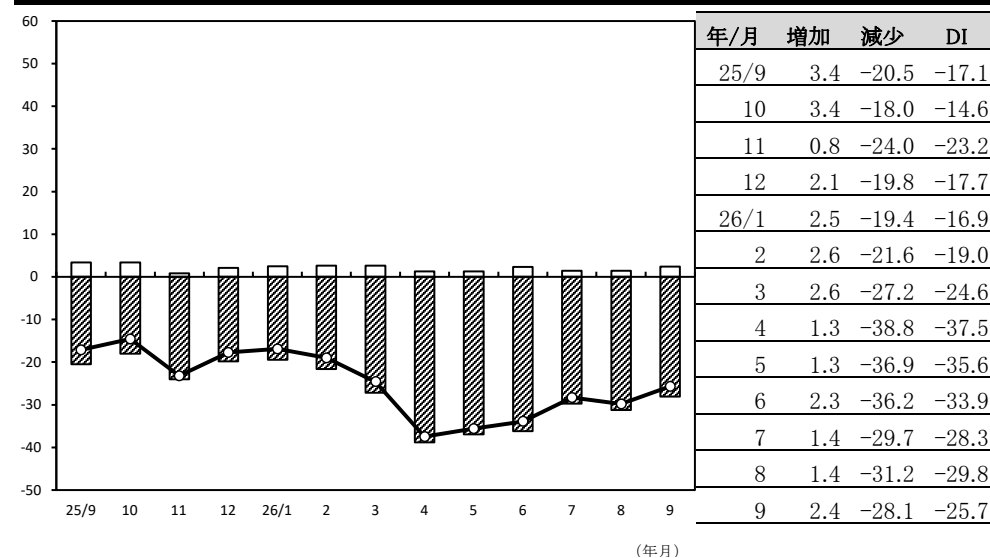
資金繰り



採算

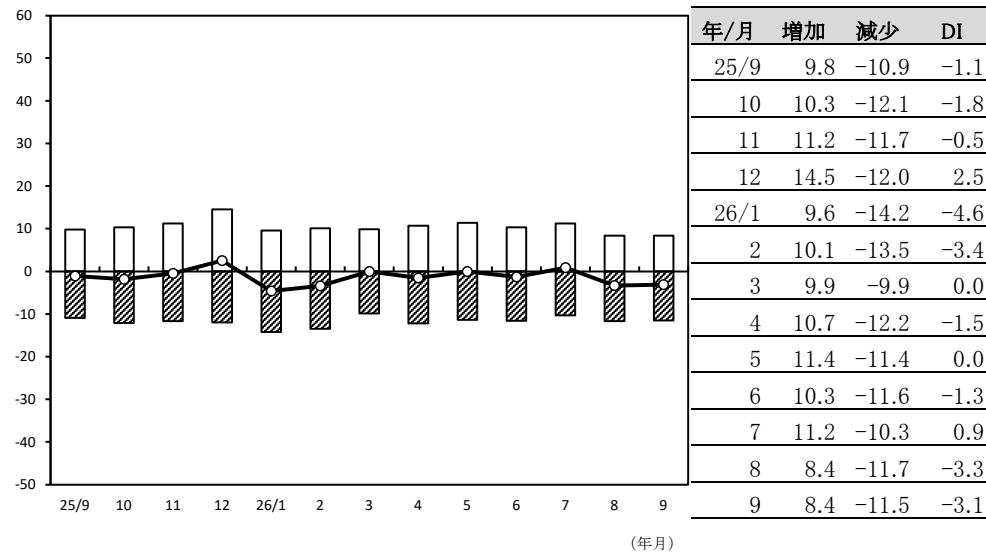


業界の業況

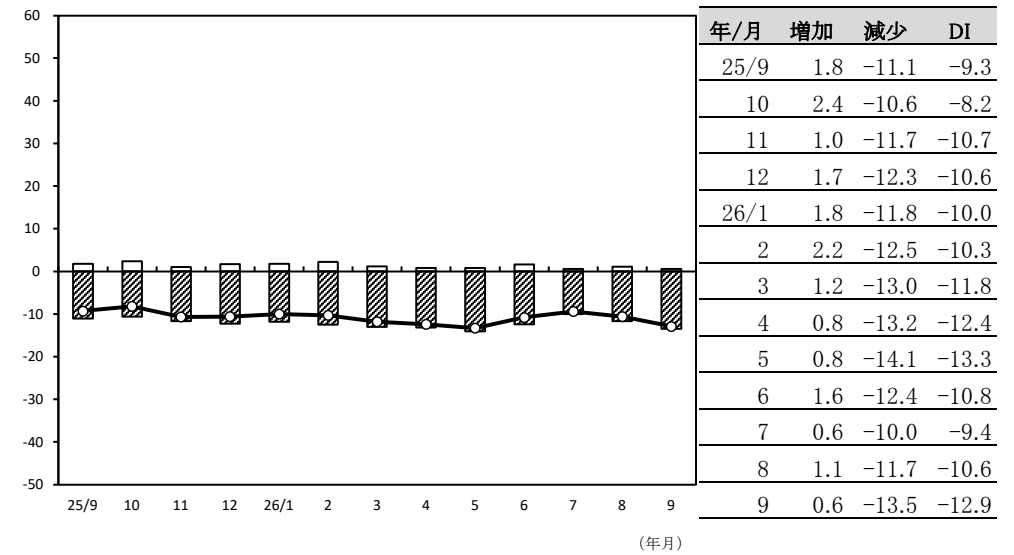


サービス業【理・美容】（前年同月比）

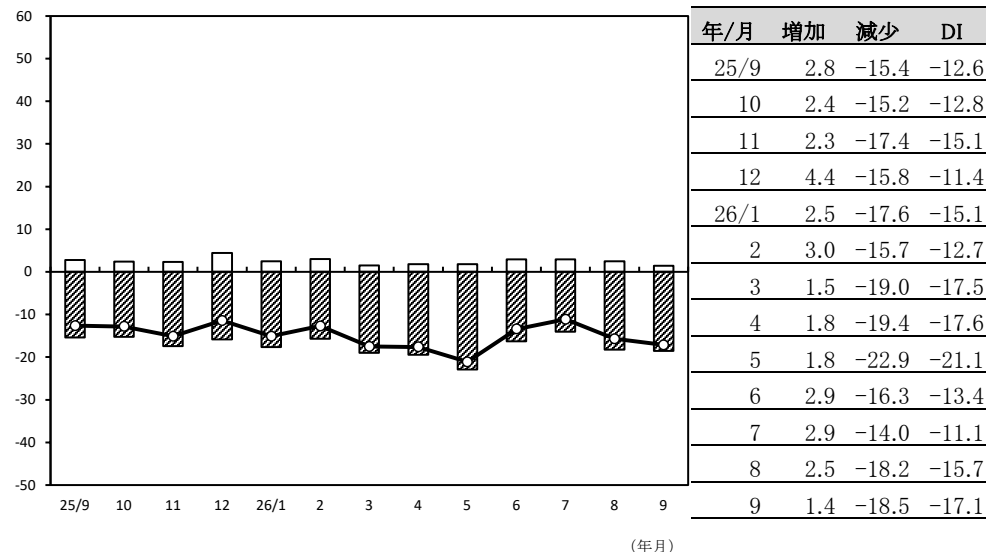
売上額



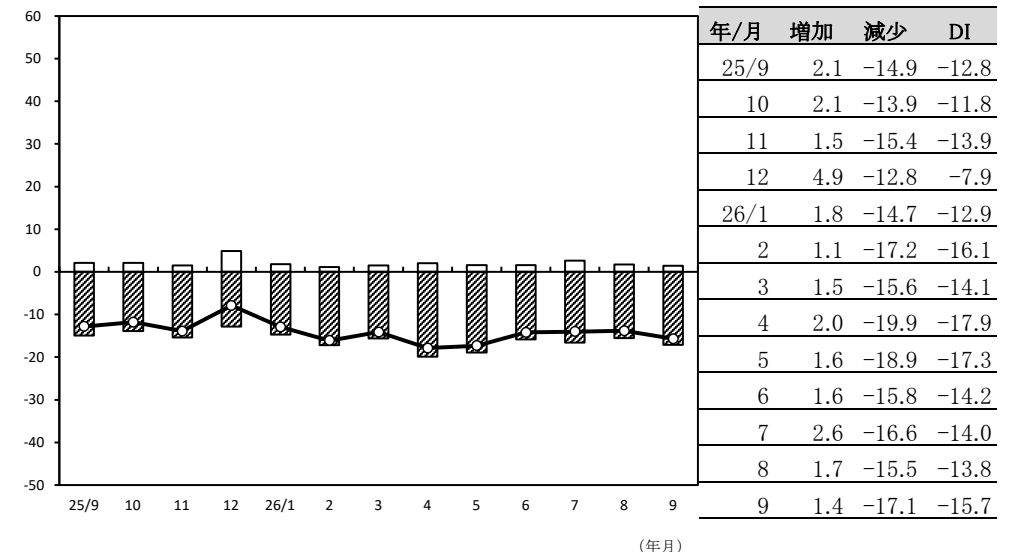
資金繰り



採算



業界の業況



小規模企業景気動向調査(9月期)における商工会経営指導員の主なコメント

* コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

全体的に好景気な感覚をもっている

(埼玉県北本市商工会)

9月はシルバーウィークがあったこともあり、売上が上昇した業種があった。

(新潟県朝日商工会)

管内の小規模食品製造業は、都市圏での需要拡大を好機と捉え、地場食材を活かした高付加価値商品の開発やブランド化による販路開拓に注力しています。ネット通販や商談会の活用を通じて都市部へ直接アプローチする動きが広がる一方、生産体制の強化や輸送コストの適正管理が事業成長の鍵となっています。

(広島県黒瀬商工会)

先月に引き続き、県外やインパウンドなどの観光客が来島し町内の景気は好調といえる。また、久米島オーシャンジェットの運行が再開された事も観光客増加の要因と思われる。

(沖縄県久米島商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

仕入や資材の不足は徐々に改善してきているものの、依然として価格の高止まりや人手不足が続き、企業収益には負担が生じています。こうした状況の中では事業運営に不安が残っており、最低賃金の引き上げも踏まえながら、無理のない形で価格転嫁を進めていくことも必要である。

(岩手県前沢商工会)

金利上昇に伴う借入負担の増加への懸念から、設備投資や事業投資に慎重な姿勢を示す事業者も見受けられる。

(宮城県遠田商工会)

価格転嫁が十分に追いついていない状況での10月からの最低賃金引上げについて、コスト負担や業績悪化を懸念する声が根強く出ている。

(秋田県白神八峰商工会)

9月期は台風や長雨などの天候不順が続き、業種ごとに影響の度合いが分かれた。食料品製造は天候の影響が限定的で売上は増加したが、青果は雨天長期化により価格上昇や不作が発生した。機械・金属は仕入高止まりと納期遅延が続いたものの、需要は回復見通しである。建設業は屋内作業中心のため天候影響は軽微で、受注は堅調に推移した。一方、洗濯業は雨天で客数が大幅減となり、資材値上げも重なり資金繰りが悪化した。理・美容は月初に客数減がみられたが、広告施策で回復した。

(茨城県守谷市商工会)

9月は夏の最盛期が過ぎた「季節的端境期」に入り、天候不順も重なって観光・サービスや小売を中心に客足・需要が一時的に落ち着く足踏みの月となった。「建設・製造」は秋の行楽・完工に向けた需要で稼働自体は底堅く推移している。一方で、仕入価格やエネルギー費用の高止まりに加え、10月の最低賃金改定に伴う人件費(労務費)の上昇圧力が各業種の採算を強く圧迫。売上確保以上に「粗利率の低下」が共通の課題となっている。今後は、データに基づく「価格転嫁(適切な値上げ)」の実施と、直販(自社予約・EC)強化や省力化ITの導入による利益率向上の伴走支援が不可欠となる。

(栃木県那須町商工会)

送料などの運搬コスト増加の影響が多く、おそらく海外情勢による影響が価格転嫁に回り始めている印象である。

(群馬県安中市商工会)

9月はとにかく平日休日共に雨が多く、冠水なども発生した為消費者の行動が制限され多くの業種が影響を受けた。今後も毎年同じ天候が続くと想定しながら、設備の導入や防災対策をすることが必要である。

(千葉県香取市商工会)

一部の業種では、災害復旧関連工事や天候による特需などにより一定の需要が確保され、比較的安定した業況がみられる一方、原材料費や仕入価格等の上昇分を十分に価格転嫁できない事業者では厳しい状況が続いている。また、下請け階層が深くなるほど価格転嫁が難しくなるなど、企業間で業況の二極化が進んでいる。全体としては、一定の需要がみられるものの、コスト上昇や価格転嫁の状況が業況を左右しており、先行きについては依然として慎重な見方が続いている。

(長野県佐久穂町商工会)

管内の景況は、一部業種で売上や受注に持ち直しの動きが見られるものの、業種間だけでなく同一業種内でも事業所ごとの業況に格差が生じている。原材料や仕入価格の上昇が続く一方、消費者の節約志向や来店頻度の減少など、需要面での弱さも見受けられる。特に、売上が前年並みであっても利益や資金繰りの改善には結びつかず、売上と収益の回復に乖離が生じている点が特徴的である。今後は、仕入価格の上昇分を適切に価格転嫁できるかに加え、減少する需要をいかに取り込むかが経営上の課題となる。景況の回復にはなお力強さが欠け、事業者の経営体力によって明暗が分かれる状況が続くものと見られる。

(岐阜県大垣市商工会)

積極的に成長を求める企業があり、中には「100億宣言」を行い積極的な設備拡充、国内外での顧客開拓に取り組む製造企業(金型設計製造修理)がある。しかし発注元に対する価格交渉が依然困難である製造事業者も多く、製造業で二極分化が進んでいると見られる。小売・サービス業では、地域住民高齢化により、客の来店難化が更に進んでいる模様。

(静岡県富士市商工会)

今月は雨の日が多く売上に影響を及ぼしているとの事業所の声が多かった。また、来月からの最賃の引き上げは、経営を圧迫するという声が聞かれた。

(滋賀県大津北商工会)

当月は、連休需要の活用や販路開拓(補助金活用・EC・SNS動画)、新サービスの導入など、自力で打開を図る意欲的な動きが見られる。しかし地域経済全体の底流としては、長引く仕入価格・エネルギーコストの高騰に加え、深刻な「人手不足」と「需要の構造変化・縮小」が経営の足を引っばっている。特に、飲食・宿泊業における競合激化、製造業(繊維等)における事業撤退の動き、建設・理美容での人手不足による受託能力の限界など、経営の存続に関わる問題が表面化している。前年同期と比較しても業況改善の兆しは乏しく、二極化と厳しさが一段と進行している。

(兵庫県丹波市商工会)

多くの事業者が価格高騰の影響を受けている。また、小売・飲食からは9月売上高が落ち込んだとの声も聞かれており天候や暑さ等の影響があったものと考えられる

(奈良県上牧町商工会)

9月は、シルバーウィークによる旅行・外食・物販等の需要が一時的に好調となった一方、物価高による消費者の節約志向が続き、業種間で明暗が分かれた。原材料・燃料価格や最低賃金の上昇が事業者の負担となる中、価格転嫁や省エネ・高性能商品の需要、同業者撤退による顧客流入などで対応する動きもみられた。全体としては大きな景況変動はなく、先行きには慎重な見方が残る。

(鳥取県琴浦町商工会)

全体的に景気感が悪いとのコメントが多い。1月頃は景気回復の兆しを感じているとのコメントが多くあったが、ホルムズ海峡の封鎖以降の春先から景気の減退感が増している。

(岡山県瀬戸内市商工会)

仕入単価が上昇しているが、価格転嫁ができていない事業者が多い。9月はシルバーウィークの影響で観光関連業はやや好調であったが、終了後は反動がでている。

(広島県江田島市商工会)

当地域においては、造船、紙、化学、機械など製造業には底堅さがある一方、他の業種の小規模事業者は原材料、人件費、エネルギー費の高騰や人手不足で収益が圧迫され、景気感はやや悪化している。

(愛媛県周桑商工会 小松支所)

9月の管内景況は、8月と比較すると一部で持ち直しの動きがみられたものの、7月28日の熊本地震による影響が各業種に残っており、全体としては厳しい状況が続いている。加えて、原材料・仕入価格や光熱費、人件費等の上昇が事業者の収益を圧迫している。価格転嫁も十分とはいえず、売上が回復しても利益の確保が難しい事業者がみられる。先行きについても、消費動向や地震による影響が不透明であり、慎重な状況が続いている。

(熊本県多良木町商工会)

2. 製造業
＜改善傾向を示すコメント＞ 食料品製造では、9月期は天候不順でも業況への影響はなく、売上は前年同期比で増加した。仕入単価は高止まりが続くが、10月の値上げ報道があるものの当面は現行価格を維持する方針である。機械・金属関連では、仕入単価の高止まりに加え、納期が通常より2週間遅延している。売上は前年同月比で増加した一方、前月比では取引先の半期決算に伴う在庫調整の影響で約100万円減少した。11月以降は受注増により調整前の水準へ戻る見通しである。 （茨城県守谷市商工会） 半導体関連の裾野に入っている製造業は好調 （東京都東久留米市商工会） 米菓製造業では、10月の売上は前年を上回っているものの十分な回復には至っていない。また、11月から仕入単価の上が予定されており、収益への影響が懸念される。繊維関連業では、9月後半から受注状況に改善の兆しが見られるものの、冬物需要が前年並みの水準まで回復するかは不透明であり、事業所間で業況に差が生じている。自動車部品製造業では、モデルチェンジの影響により売上が前年同期比22%減少するなど、厳しい状況にある。一方、12月以降は売上の回復が見込まれている。製造業全体としては、一部に持ち直しの動きが見られるものの、原材料価格の上昇や受注動向の不確実性などから、引き続き慎重な見通しとなっている。 （岐阜県大垣市商工会） 機械・金属製造業について、中東情勢により仕入値が1.5～2倍になっているが、価格転嫁や単価の値上げは適正になされている事業所が多くみられる。また現状では受注量も上昇傾向にある。 （香川県高松市中央商工会） ＜悪化傾向を示すコメント＞ 食料品製造：製造部門にて主力で働いていた一番若い従業員が退職することとなった。退職後は事業主及び専従者がその分の業務に従事しているが、キャパオーバー状態。新たな人材を採用できるか不安視している。繊維工業製造：受注量は昨年同月並みで仕事の確保はできている。取引先とは再契約の際に価格交渉を行ったが、資材費、送料等の上昇や最低賃金引上げ等の影響から今後の採算については不安を感じているとのこと。機械・金属製造：夏以降、既存取引先からリピート量産案件の追加受注を受け、稼働率120%を超えている。日々の残業で対応中。社内のみでは対応できず、協力会社への展開や夜間運転対応の設備投資を検討している。 （秋田県由利本荘市商工会） 原材料高騰と人手不足の声が多く、人件費増と受注減少が資金繰りひっ迫に影響している。 （山形県南陽市商工会） 食料品製造業は包装資材等の高騰によって40%値上げしている。機械金属製造業は半導体需要の増産により継続して受注量が増加しており、前年比150%の売上を確保している。 （福島県楢葉町商工会 センター） 食料品については度重なる値上げにより仕入単価が上昇している一方で、消費は横ばい傾向。仕入単価上昇分の価格転嫁も限定的のため収益性は悪化している。 （群馬県みなかみ町商工会） 原材料・エネルギー・物流費や人件費の上昇が続く、価格転嫁の進捗によって採算に差がみられる。 （埼玉県毛呂山町商工会） 食料品製造業に関しては天候の影響も受けて業界全体として厳しい月となった印象である。 （千葉県香取市商工会） 食料品製造では、価格高騰が来月以降も行われることから、業界全体に落ち着かない。先行き不透明。繊維製造ではエネルギー高騰で不安要素しかない。収益低下になることからコスト削減をどうするか悩んでいる。機械・金属製造では、売上が微増したと同時に仕入単価も増加した売上は微増したが、同業他社の業況がよくない。 （富山県小矢部市商工会 津沢支所） 一次・二次下請け企業は比較的業況が安定しているものの、三次・四次下請けなど下請け階層が深くなるほど価格転嫁が難しく、厳しい状況が続いており、業況の二極化が進んでいる。 （長野県佐久穂町商工会） 「食料品」原材料やエネルギー価格の高騰による収益圧迫という厳しい状況が続いている。「機械・金属」受注は顕著であるが依然としてコスト増から収益8採算」が圧迫され厳しい状況が続いている。 （静岡県森町商工会） 食品製造業関連の事業者は、雨が多かったため、お客様の来店数が減少し売上に影響した。仕入単価は高止まりで収益を圧迫。4月からの消費税減税に対するレジは対応可能である。一方、テイクアウト商品は容器等の関連経費もあるので販売価格について思案中。繊維工業関連の事業者は、仕入単価が上がり続けている。商品価格を上昇させ何とか採算が取れている状況。インバウンドも戻りつつあるので商品の動きも好転してきた。ただ、来月からの最賃上昇は、経営上厳しく従業員の労働時間短縮も検討しなければならない。機械金属製造業関連の事業者は、仕入単価は上昇傾向。業界の業況は2極化（好調・不調）しているが、自社は前月と変わらない。 （滋賀県大津北商工会） 受注状況に変化はないものの、材料費の高騰により利益が出ていない状況。資材の価格改定が頻発しているが、見積金額の変更はキャンセルに繋がりがやすく、転嫁し辛い状態。機械金属業においては受注安定しているが、人材不足により受注増に対応できないケースや、賃上げによる利益圧迫が起きている。 （京都府京丹後市商工会） 原材料費や容器・包材費の高騰が継続しており、製品への価格転嫁を進めるものの採算面の圧迫完全に払拭しきれない。食料品製造では新商品開発やイベント出展などの前向きな取り組みが見られる一方、原材料の収穫遅れが製造・営業の制約となる事例が見られる。繊維工業においては、内製化による経費削減の試みがあるものの、需要の低下で事業閉鎖の決断に至る事業所が発生するなど、厳しい局面に直面している。機械金属等では、設備導入による省力化を図る動きはあるものの、全体として収益の向上には至っていない。 （兵庫県丹波市商工会） 食料品製造業においては、包材の価格上昇から仕入価格が上昇している。売上については横ばいであり利益が減少している。また、米の価格が下落しており、米を材料としている事業者については今後仕入価格の減少が見込まれる。消費減税の影響を懸念する声も聴かれる。 （岡山県阿哲商工会） 価格転嫁の遅れによる採算悪化に伴う資金繰りの悪化が顕在化。また、価格硬直回避のためのリスク分散や新需要開拓を目的とした新規取引先の確保に向けた動向が見られるようになった。 （山口県山口県央商工会 秋穂支所） 資材全般的にも値上がり傾向にあり、価格転嫁に試行錯誤しています。 （徳島県上勝町商工会） 受注がが堅調な製造業もあるが、いずれも原材料、エネルギー、人件費が上昇しており、価格転嫁が追いつかず採算・資金繰りは厳しい状況である。 （愛媛県周桑商工会 小松支所） 特に大きな波乱はなかった 食品関係は消費税1%になったらどうい影響が出るのか不安視している （高知県四万十町商工会） 9月は8月と比較して受注・生産動向にやや持ち直しがみられるものの、7月28日の熊本地震による影響もあり、回復は限定的である。原材料・エネルギー価格の高止まりや価格転嫁の難しさから収益環境は依然として厳しく、先行きについても慎重な見方が続いている。 （熊本県多良木町商工会） ・材料、資材が継続して値上がりしている。新規のお客さまが多かったように感じる(菓子製造業)。・売上、利益ともに堅調に推移しており、受注、売上ともに好調である。また、物価上昇に伴う価格転嫁も順調に進んでおり、今後も業界全体として堅調に推移する見込みである(機械金属製造業)。 （鹿児島県日置市商工会 日吉支所）

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

資材・人件費(外注費)の高騰、借入金利の上昇など経営にネガティブな要因が顕著であるが、一時期の資材・部材の不足はある程度解消され、業務の循環が安定してきた。しかし、人手不足は継続しており仕事があっても手が足りない状況にある。

(埼玉県入間市商工会)

建設業では、資材等の仕入単価が約1割上昇しており、工事原価の増加が収益を圧迫する要因となっている。一方、業界全体ではナフサ価格の影響がやや落ち着きを見せており、コスト上昇圧力には一部緩和の兆しが見られるものの、依然として仕入価格は高い水準にある。今後も資材価格の動向を注視する必要があり、厳しい経営環境が続くことが懸念される。

(岐阜県大垣市商工会)

人手不足、資材価格の上昇、資格保有者の高齢化、若年従業員の育成など課題は多くあるものの、業況は比較定期安定している。公共工事は減少傾向にあるものの、民間工事の需要は依然として高く、左官・内装・塗装・板金・大工・電気工事など活況が続いている。

(島根県隠岐の島町商工会)

売上上昇は価格転嫁を行ったことによるもので、大きな利益の確保には繋がっていない。材料の納品遅れなどは少なくなったが、価格は下がっていない。エクステリア用品によっては価格を据え置くために品質が悪くなった商品があり顧客からのクレームがあった。小さな地震が岡山県でも増えており、コンクリート舗装のひび割れなどの修繕依頼が8月～9月に掛けてあり、サービスで修理を行った。公共工事は案件も少なく、入札を取っても稲刈りが終わるまでは着手出来ない。豪雨の影響で市が管理する道路のアスファルト舗装の剥がれなどが発生しており修理を行っている。急を要するため、修理代金は市役所との話し合いで決まるため利益率が良い。

(岡山県瀬戸内市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

今期売上予測は昨年の半分。要因は中東情勢の悪化で春から夏にかけて錆止めが入ってこず現場が滞っていたこと。お盆すぎてからやっと材料が安定し、受注はきているが、いつも外注している人(一人親方や最近開業した人)が廃業して仕事が進まない。

(青森県鶴田町商工会)

物価高騰や資材不足、工事減少に加えて、最近の天候の悪さも悪影響があった。

(宮城県丸森町商工会)

建設業では、資材価格の高止まりや人件費上昇が続く、採算は依然として厳しい状況にある。公共工事は一定の受注があるものの、民間工事では住宅関連を中心に計画見直しが見られ、売上は事業者間で差が出ている。仕入単価は鋼材・木材ともに高水準で推移し、原価管理の負担が増している。資金繰りは大きな悪化はないものの、阿見町でも先行きの受注環境が読みづらく、事業者は慎重な姿勢を強めている。業況感は弱含みで、今後の動向を注視する必要がある。

(茨城県阿見町商工会)

9月の建設業は、「台風・秋雨などの天候不順による屋外工事の遅れ」や「秋の紅葉ハイシーズンに向けた店舗・別荘改修の完工追い込み」が重なり、現場の稼働自体は高水準を維持したものの、「労務費・資材費の高止まり」が依然として利益を圧迫する月となった。他業種(サービス業・製造業など)との人材獲得競争が激化する地域において、10月の最低賃金引き上げを目前に控え、熟練職人の囲い込みや若い現場スタッフの確保のために労務単価を引き上げざるを得ず、固定費(人件費)の上昇が懸念材料となっている。

(栃木県那須町商工会)

建設業に関しても天候の影響および個人事業者の仕事が減少し、景気は変わらないが、状況は悪化している。今後も材料の高騰などもあり、厳しい状況が続くと考えられる。

(千葉県香取市商工会)

引きあいはあるけど人手不足により受注が出来ないといった状況が継続している。次月より、最低賃金上昇により更に人手確保は困難となる見込みであり、今後は建設業の案件においてだれも受注しないといったものも見られるようになるのではないかとのこと

(東京都福生市商工会)

建設関連事業者は、材料の共有停滞は解消されつつあるものの、人手不足により受注ができず、資金繰り等についても懸念される状況となっている。

(新潟県南佐渡商工会)

資材価格や燃料費、人件費等の高止まりが続く中、価格転嫁が十分に進まず、採算確保への苦慮が見られる。一方、住宅・店舗等の改修や設備工事など一定の需要はあるものの、人手不足や受注案件の減少を懸念する声もあり、全体として厳しい状況が続いている。

(山梨県昭和町商工会)

資材価格や人件費などの上昇が続いており、事業者の資金需要が高まっている。建設業では受注を一定程度確保している事業者も多い一方、工事費や人件費等の負担増加により、運転資金の確保を目的とした融資申込みが増えている。今後もコスト面の動向を注視する必要がある。

(滋賀県瀬田商工会)

今年度に入り売上は増加している状況ではあったが、中東情勢の関係で取引先関係の工事や受注に影響が出てきており今後はどのように変化するか不透明な状況である。物価の高騰も重なり収益は減少すると考えています。

(大阪府羽曳野市商工会)

仕入単価が大きく上昇しており、コスト増加への対応が喫緊の課題となっている。対策として順次価格改定を進めているほか、見積の有効期限を短く設定することで資材高騰リスクの抑制を図っている。しかしながら、実際の契約締結時にさらなる値上がりが生じるケースも見られ、価格転嫁が追いつかない場面があり苦慮している。採算や資金繰りの悪化を防ぐためにも、柔軟な価格設定と発注者との丁寧な価格交渉が不可欠である。

(鳥取県米子日吉津商工会)

近年需要が安定的ではないため、悪化時を見据えた計画立てが求められる。

(山口県山口県央商工会 秋穂支所)

建材価格の高騰により、新築着工件数が減少している。それに伴い下請け業者も影響を受けている。

(愛媛県内子町商工会)

コロナ時に借り入れを行った事業者で金利の上昇によるリフォーム等案件の冷え込みにより売り上げが急減し資金繰りが悪化している事業者が見受けられる。実際に住宅ローンの金利が急速に上昇すれば住宅着工に二の足を踏む消費者の増加が見込まれ、先行きに不安がある

(福岡県吉富町商工会)

建設業では、資材価格や燃料費、運搬費等の高騰が続く、工事原価の上昇が経営を圧迫している。人手不足も続いており、人材の確保が課題となっている。

(長崎県松浦市福徳商工会)

9月の建設業は、8月と比較すると工事の動きにやや持ち直しがみられるものの、7月28日の熊本地震の影響により、工事の遅れや資材調達への影響が続いている。加えて、資材価格の高止まりや人手不足によるコスト増加も収益を圧迫しており、厳しい経営環境が続いている。一方、今後は災害復旧関連工事等による需要の増加が期待される。

(熊本県多良木町商工会)

円安・資源高による資材価格の高止まりに加えて労務費の上昇が利益を圧迫している。受注については安定している。取適法が改正したが、依然として中小・下請け企業では価格転嫁が進みにくく経営難が目立つ印象だ。

(大分県玖珠町商工会)

建設塗装関連の事業者は国の公共工事が長期的にあり売り上げは好調。その反面、物価高騰により材料仕入も上がっている。

(沖縄県久米島商工会)

4. 小売業
<改善傾向を示すコメント> ・小売業に関するコメント シルバーウィークは連休繋がりと好天にめぐまれ、観光客と収穫シーズンのため米農家の来客が目立った。軽食やお菓子類の売上が好調であった。 (青森県鶴田町商工会) 昨年よりも長く続いたシルバーウィークにより売上が上昇した。 (新潟県朝日商工会) 地域内に民泊業が増加、利用者も夏休みなどで学生の宿泊客が増加、食料品の購入が増えた。 (岐阜県白川町商工会) 長期休暇があったため売上は伸びている(衣料品小売業) (長崎県新上五島町商工会)
<悪化傾向を示すコメント> 天候不順による消費者の来店頻度の減少が直接的に影響していた。生活必需品か否かによって売上に差が生じており、仕入れ価格の高騰により、利幅の減少が進んでいる。また、問屋の廃業も散見され、同じタイミングでの小売店の廃業があるなど、小売業での整理が進んできている印象。 (宮城県栗原南部商工会 潮峰支所) 食料品関連事業者の9月期は、台風やゲリラ雷雨などの天候不順が続き、ほぼ1か月間雨天となった。この影響でホウレンソウや小松菜は例年より100円以上値上がりし、レタスも不作となった。天候要因が仕入価格や供給に大きく影響したとみられる。 (茨城県守谷市商工会) 小売業全体では、価格の高騰によって消費者の買い控えに繋がっており、需要は停滞している。そのため価格転嫁も難しい状況にあり収益性は悪化している。 (群馬県みなかみ町商工会) 小売業に関しては、食料品などについては天候不順や10月からの増税に備え買い溜めをする消費者ニーズがあり、好況であった。衣料品に関しては、ネットの利用などの影響で引き続き需要が伸びず、厳しい状況が続いている。 (千葉県香取市商工会) 9月は夏季需要が落ち着くなか、仕入れ値や各種コストの高止まりが収益の重荷となり、業況はおおむね横ばいで推移しました。 (東京都東久留米市商工会) 食料品小売業においては、米の価格が対前年比大幅に減少しているが、それ以外の物品の価格上昇傾向は続いており、消費抑制傾向は継続している。 (新潟県寺泊町商工会) 食料品(米穀)お米の仕入れ価格が落ち着き若干採算はよくなったが、業界としては依然きびしい。耐久消費(家電)エアコンの需要も落ち着き、全体的に商品の動きが悪く、先行きが不安。 (富山県小矢部市商工会 津沢支所) 物価上昇の影響から消費者の節約志向が続き、日用品等を中心に買い控えが見られる一方、商品価格への転嫁が進み、売上維持に尽力している。仕入価格や人件費等の上昇も続いており、利益確保が難しい状況にあるなど、厳しい経営環境が続いている。 (山梨県昭和町商工会) 灯油販売の時期が近づいてきているが、中東情勢の影響で昨年より仕入価格が大幅に上昇している。仕入が出来る量も限られているので、資金繰りに影響が出てくると思われる。悪天候が続いたため、野菜の値上がりがすごい。 (長野県長野市商工会) 衣料品小売業は、物価高による節約志向の強まりから全体的に厳しい景況にある。天候不順による来店客数の減少も販売の重荷となっている。事業者曰く一部の百貨店では衣料品販売に持ち直しがみられるものの、業界全体への波及は限定的と考えられる。今後は秋冬物需要の取り込みが期待されるが、まだまだ不景気は続くと思われるそう。 (岐阜県古川町商工会) 衣料品業では消費者の節約志向が依然として強く、高価格帯商品よりも実用性や価格を重視する傾向が見られ、量販店へ顧客が流れる状況が続いている。また、仕入価格の上昇も続いており、販売価格への転嫁が難しい中で、利益確保が大きな課題となっている。食料品業では特売品や低価格商品を選ぶ顧客が増え、買上点数を抑える傾向がみられる。当月は雨天が続いた影響により、野菜全般の生育や流通に影響が生じ、価格が高騰した状態が続いている。消費者からは価格上昇を懸念する声も聞かれ、小売店においては仕入コストの上昇への対応に苦慮している。 (静岡県静岡市清水商工会) 雨天が多かった影響か、9月は例年より悪かった。 (愛知県音羽商工会) 衣料品小売業関連の事業者は、今月も同業者が衣料品関係を廃業し、経営の集中化(不動産業)をした。衣料品関係は天候に左右されるので、天気予報次第で売上に影響する。食料品小売業関連の事業者は、今月は、来月からの酒税の変更により、買い控えが見受けられた。耐久消費財関連の事業者は、今月は、先月の売上増の反動により、売上がやや減少。エアコンの2027問題により、エアコンの問い合わせは多い。同業者は、小売店だけでは経営が厳しので、電気関係工事やリフォーム関係を手掛けている所がほとんどである。 (滋賀県大津北商工会) 観光客の回復により、茶関連商品や地元産品の販売が堅調。仕入単価は上昇しているが、価格転嫁が進み採算は維持されている。地元商店では、夏場の来訪者増が売上に寄与した。 (京都府和束町商工会) 食料品や日用品の仕入価格上昇が定着する中、連休(シルバーウィーク)期間中の観光需要や新商品・新サービスの提供により局所的な集客効果を上げた事業所が存在する。しかし、消費者の購買意欲の伸び悩みや物価高に伴う売上・利益の不透明感は強く、「本当に売上につながるか」という不安感が根強い。また、事業規模の縮小傾向も続いており、小売業全体として収益性の改善や手元資金の確保に苦慮する状況が続いている。 (兵庫県丹波市商工会) 仕入価格が高騰しており、価格転嫁が思うように進まず利益を圧迫している。 (奈良県斑鳩町商工会) ・食料品小売業について、物価高騰により、仕入高が昨年同月対比で上昇傾向にある。・耐久消費財小売業については、自動車整備業が電子制御装置整備工場の認証を取得する事業所が散見され、利益率の良い分野への販路開拓を行うことによる売上増加が見られる。 (香川県高松市中央商工会) 9月の小売業は、8月と比較すると客足や売上にやや持ち直しがみられるものの、物価上昇の影響による消費者の節約志向は依然として強く、消費動向は力強さを欠いている。仕入価格や光熱費等の上昇も続いており、販売価格への転嫁を進めているものの、収益の確保は厳しい状況にある。今後も物価高による消費への影響が懸念され、慎重な見方が続いている。 (熊本県多良木町商工会) 食品小売、菓子小売などでは消費者の節約志向が定着しており買い控えが起き始めているとの声が上がっている。現状では売上額の減少などは見られないが、仕入れコストの上昇、人件費、物流費の上昇が事業者の負担となっている。 (大分県玖珠町商工会)

5. サービス業
<改善傾向を示すコメント> 旅館・宿泊業関連の事業者は連休に加え、工事関係者の利用が安定的にあり、売上に寄与している。 (北海道新ひだか町商工会) 宿泊業者はシルバーウィークにより昨年より売上が上昇した。 (新潟県朝日商工会) 理美容業に関して、近年の物価高騰や景況感などで、全体的に顧客の回転頻度が減ったと感じていますが、各店舗で、単なる美容業だけではなく、新たなサービス(付加価値)を提供するようになったと思っています。 (福岡県久留米南部商工会) 鹿児島県の宿泊割引「かごしま観光応援割」が始まり、宿泊者が増加している状況が散見される。仕入単価や人件費も高騰しているものの、宿泊割の効果が大きく、「九州ふっこう応援割」の10月中旬スタートを期待する声があがっている。 (鹿児島県知名町商工会) ホテル関連の事業者は観光客増加に伴い売上が好調。修学旅行やマラソンなどのイベントが引き続き行われるため団体客も増加傾向にあり引き続き好転すると思われる。 (沖縄県久米島商工会) <悪化傾向を示すコメント> サービス関連の事業者は、深刻な人手不足に伴う採用・労務コストの増大に加え、光熱費や消耗品費の再高騰による固定費の激増のため、人流回復による需要の拡大とは裏腹に、利益率が大幅に低下する「利益なき繁忙」の状況になっています。シルバーウィークの行楽などにより、宿泊や娯楽施設の稼働率は前年を上回っていますが、欠員による機会損失や外注費の増加が経営を圧迫しています。物価高による消費者の選別意識も強まっており、コスト増をサービス価格へ転嫁しきれない事業所が多く、手元に残る利益の確保が前年以上に困難な状況にあります。 (岩手県岩手町商工会) 天候不順の影響が大きい。季節的要因での需要は例年通りの印象。ただ、一部の理美容業では顧客の利用頻度減少が著しく、事業主自身の高齢化も進んできていることから、廃業の検討を行っているコメントが増えてきている印象。 (宮城県栗原南部商工会 瀬峰支所) 洗濯関連事業者では、台風やゲリラ雷雨により約1か月間雨天が続き、定期来店客の来店が難しくなったことで客数が大幅に減少した。資材は高止まりのうえ石油関連資材では5～6%の値上げ連絡もあり、資金繰りは一段と厳しい状況である。一方、理・美容関連事業者では、9月期の売上は前年同月比で増加したものの前月比では減少し、月初は客数が落ち込んだ。しかし月途中のインスタ広告により客数は回復し、低価格帯となっている現行料金の価格改定を検討している。 (茨城県守谷市商工会) 洗濯、理・美容など生活関連サービスでは、家計の節約志向の影響もみられる。 (埼玉県毛呂山町商工会) 理美容業関連の事業者は、新規顧客獲得が見込めず、既存客も来店周期が長くなり、年々売上が減少している状況。 (神奈川県小田原市橋商工会) グリーンシーズンは建設業関係の従業員の宿としての需要が一定数あり、安定している。山小屋は登山客が天候もあり昨年に比べてやや減少した。 (長野県小谷村商工会) 旅館業では、降雨により客数が終始低調に推移し、売上も前年同月比約20%減少した。また来月港周辺に桜えびや鮎を主力とした競合店舗増加により、影響を懸念する声が聞かれた。洗濯業では、光熱費・資材費の上昇に加え、利用頻度の低下が課題である。ただ、当月は降雨日が続いた影響で利用客が増加し、特に乾燥機は終日稼働する状況が続いた。空きを待てず帰る利用者も見受けられ、事業者は需要拡大を見据え、機械設備の増設を検討している。理美容業では、売上は前年並みで推移しているが、光熱費の上昇により、収益面では厳しい状況が続く。こうした中、客単価向上を目的にヘッドスパなどの付加価値サービス導入について相談があった。 (静岡県静岡市清水商工会) 旅館・宿泊所関連の事業者は、9月までシーズン料金であったため、売上は横ばい。最近では、素泊まりの予約が多く食事提供による売上増には繋がらない。洗濯業関連の事業者は、仕入単価が高止まりしている。今月発表された来月からの最賃アップにより、人手が欠かせない洗濯業では、収益を圧迫する。自社では機械化出来る所はしているので、人手に頼らざるをえないことから、人件費のアップは厳しい。理美容業関連の事業者は、商圏である和邇地区には格安店の進出が無く何とか固定客中心に繰り返してはいるものの今後の環境変化が不安である。 (滋賀県大津北商工会) サービス業関連の事業者は、大型連休(シルバーウィーク)により、例年よりは宿泊客も売上も増えたが、長前による天候不良により思ったほどではなかった。 (京都府京丹波町商工会) 旅館・シルバーウィークの連休後半は、天候等を見ながら直前に予約が入るなど、予約の入りが例年と異なるとの声もあったが、結果的には満室となる旅館が多かった。平日も予約で埋まる旅館があるなど、宿泊需要は比較的好調。洗濯:物価高騰による燃料や仕入単価の高止まりと需要の停滞により、廃業を選択する事業者が増加、業界全体を取り巻く環境は厳しい。一方で、事業を継続する事業者には、同業の撤退に伴う新規顧客の流入が一部で見られる。理美容:連休中も自身のメンテナンスをする客層があり、予約で埋まるなど休みなく営業する店舗もみられた。また、次回予約を促すなど、定期的な来店につなげる取組もみられた。 (鳥取県琴浦町商工会) ■理美容業:特に大きな景気の変化を感じないが、夏場の電気代や水道代は利益を圧迫している。■クリーニング業:8月～9月は閑散期だが、今年は暑さの影響もあり特に来店客数が少ない。スーツなどのクリーニング依頼が年々減っている。ボイラー重油の燃料代は高いが、来店客数が少ないため長時間の機器の稼働が無いいため、大きな経費負担にはなっていない。■警備用品設備:防犯カメラ等の整備用機器の取付ニーズが上がってきており、9月から従業員を1名増員した。11月にも増員する予定である。■高齢化による車離れが年々増えており、車検台数などへの影響がある。車両価格も値上げが止まらないため、買い替え控えがある。 (岡山県瀬戸内市商工会) 洗濯業を営む事業者は、利用者(来店者)数の減少により売上伸び悩んでいる。業界全体でも家庭洗濯機の機能向上やアイロン不要のYシャツが好調であること、更にビジネスにおける服装の多様化でクリーニング店を利用する顧客自体が少なくなっている。 (佐賀県多久市商工会) クリーニング事業者においては、クリーニングの受注数は少なくなっているものの、衣類の修理などのメンテナンスの需要は高まっており、そちらの増収でカバーしている状況であるとのこと。 (長崎県西そのぎ商工会) 宿泊業では、熊本地震の影響で被害がない地域ではあるがキャンセルが多く、大きく売り上げを落としている。休業した事業者もある。 (熊本県苓北町商工会) 車関係のサービス業は普遍的な様子。 (広島県福山あしな商工会) 集客方法の改善模索が求められる。 (山口県山口県央商工会 秋穂支所) 物価高による消費抑制や天候不順などから売上の伸びが鈍化しているように見える。エネルギー、人件費等の高騰が採算と資金繰りを圧迫し、業況は前年よりやや悪化しているのではないかと。 (愛媛県周桑商工会 小松支所)